

福島原発事故後の親子の生活と健康 に関する調査報告書（2018年）

このたびは、「福島子ども健康プロジェクト」が2013年1月から毎年お正月に実施しております「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」にご協力いただき、誠にありがとうございました。おかげ様で、第6回調査の報告書が完成しましたのでお送りいたします。

この報告書は、全体的な傾向を把握するために主要な項目を中心に、調査結果を要約したものです。さらに詳細な分析は、下記のホームページに掲載される予定の論文などをご参照ください。

「福島子ども健康プロジェクト」は、今後も福島県中通り9市町村の親子の生活と健康状態を定期的に記録し、親子が健やかに生活できる環境を整えるのに必要な施策を明らかにするとともに、原発事故の影響を次世代に伝えていきたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2018年4月18日

【お問い合わせ先】

福島子ども健康プロジェクト

〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101 中京大学 そんろうおんちよる 成元 哲 研究室

電話 & FAX : 0565-46-6516（直通）

e-mail : sungwonc@sass.chukyo-u.ac.jp

ホームページ : <https://fukushima-child-health.jimdo.com/>



* 本研究は科学研究費助成事業（15H01971）の研究成果です。

★ご覧いただくにあたっての注意点

- ① 調査票は、現在も調査対象者からご送付いただいております。今回の報告書は、2018年3月31日までに到着した調査票を対象としました。そのため、この報告書の結果は819票を集計したものです。
- ② 各グラフの数値は、特にことわりがない限り、回答者全体（819名）に対する割合です。ただし、小数点第2位以下は四捨五入しています。また、非常に小さい数値は表示していませんので、合計は必ずしも100%にはなりません。
- ③ 本調査データを引用される場合は、事前に「福島子ども健康プロジェクト」までご連絡ください。

1 調査の回答状況

1.1 第6回調査は819名の子ども之母親（保護者）が回答

この調査は、福島県中通り9市町村（福島市、桑折町、国見町、伊達市、郡山市、二本松市、大玉村、本宮市、三春町）の2008年度出生児6191名（生年月日が2008年4月2日から2009年4月1日までのお子さん）のうち、2016年の第4回調査に回答していた方（1019名）を主な対象としています。今回の第6回調査は、2018年3月31日の時点で、819名の子ども之母親（保護者）から回答をいただきました。

地区	第1回調査(2013年)			第2回調査(2014年)			第3回調査(2015年)			第4回調査(2016年)			第5回調査(2017年)			第6回調査(2018年)		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
福島市	2137	883	41.3	883	526	59.5	525	379	72.1	410	328	79.8	327	285	87.2	325	270	83.1
桑折町	70	34	48.6	34	22	64.7	22	19	86.4	20	14	65.0	14	12	85.7	14	12	85.7
国見町	63	27	42.9	27	13	48.1	13	11	84.6	12	11	91.7	11	9	81.8	9	7	77.8
伊達市	404	175	43.3	175	118	67.4	118	89	74.6	94	75	78.7	79	66	83.5	76	59	77.6
郡山市	2644	1076	40.7	1076	629	58.5	629	476	75.7	514	390	75.7	390	345	88.5	385	303	78.7
二本松市	397	176	44.3	176	111	63.1	111	76	68.5	80	72	88.8	72	61	84.7	73	60	82.2
大玉村	81	44	54.3	44	27	61.4	27	21	77.8	22	20	90.9	20	15	75.0	20	16	80.0
本宮市	290	125	43.1	125	82	65.6	82	60	72.0	62	48	77.4	48	45	93.8	47	38	80.9
三春町	105	34	32.4	34	15	44.1	15	10	66.7	12	10	83.3	10	8	80.0	10	7	70.0
その他*		54		54	63		63	68		71	53	73.2	55	49	89.1	60	47	78.3
計	6191	2611	42.2	2628	1584	60.3	1605	1205	75.2	1297	1015	78.3	1026	895	87.2	1019	819	80.4
		2628	42.4		1606	61.1		1209	75.3		1021	78.7		912	88.9			

表 1-1 地区ごとの回答状況

A 調査対象者数 B 回答数 C 回答率 (%)

*B,Cの計の上段は各報告書作成時点の数、下段は2018年3月31日時点での数です。

*「その他」は調査対象地域の9市町村の住民基本台帳に2012年10月から12月までに記載されていた方で、それぞれの調査時点で「9市町村外」に転居された方の人数です。

*第2回調査（2014年）と第3回調査（2015年）において、「その他」の回答数が対象者数を上回っています。これは、それぞれ前回の調査票に記入された住所に送付しましたが、転居などで「9市町村外」に移動した場合、「その他」に分類されるためです。

*第4回調査の対象者数が第3回調査の回答数を上回っています。これは、第4回調査は2015年11月末時点での第3回調査回答者（1207名）に加えて、第1回調査協力者で第3回調査未回答者の中から再協力者（90名）を加えたためです。

*第5回調査は、第4回調査の回答者（1021名）に加えて、第4回調査には回答していないが、住所変更などのお便りをくださった方（5名）を含めて1026名を対象としています。

*第6回調査は、第4回調査の回答者（1021名）のうち、転居等で住所不明になり第5回調査票を届けられなかった方（2名）を除いた1019名を対象としています。

2 子どもの生活

2.1 昨年に比べ、子どもの「外遊び」時間が減少

「外遊び」は1時間を超えて遊ぶ割合が初めて減少しました。これは子どもが小3になり、遊び方の変化と習い事等に費やす時間が増加したのがその原因と考えられます。

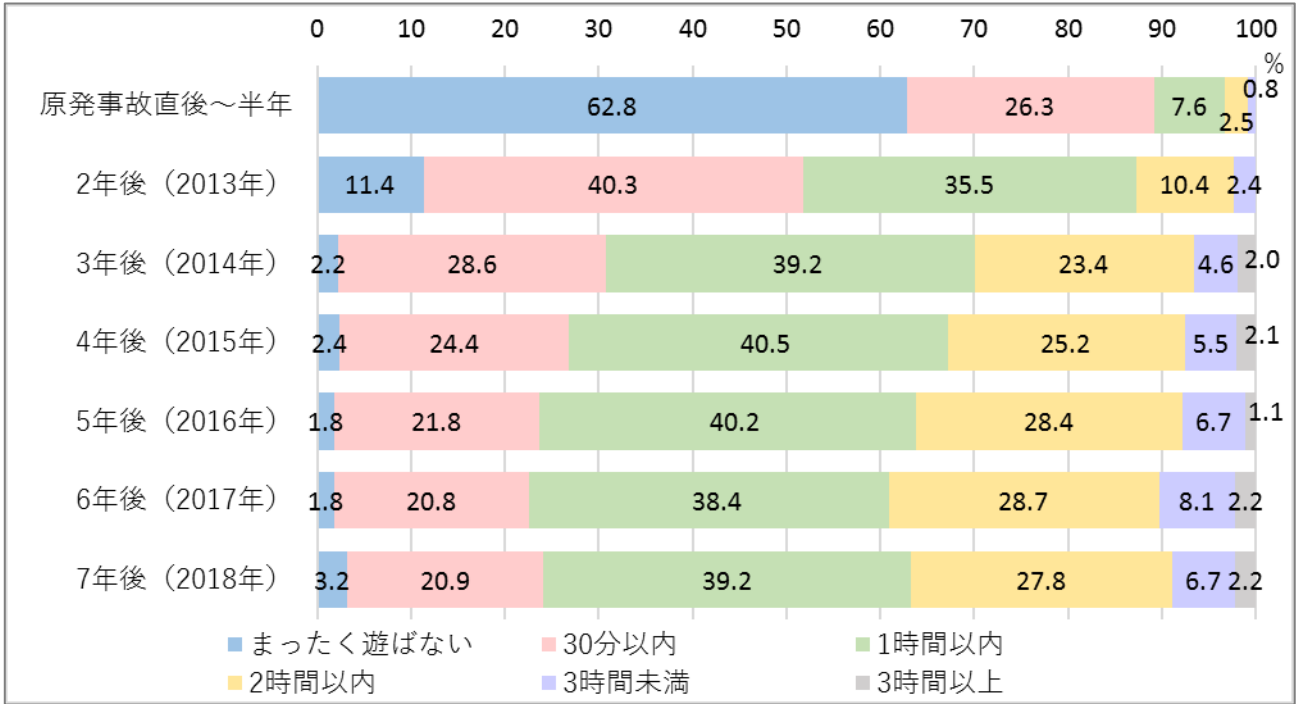


図 2-1 子どもの外遊び時間

2.2 「テレビ・インターネット」を1時間以上視聴する子どもは約8割

「テレビ・インターネット」をみて過ごす時間は、昨年同様、約8割が一日に平均して1時間を超えていることがわかりました。「3時間以上」の長時間視聴する子どもが若干増加しているようです。

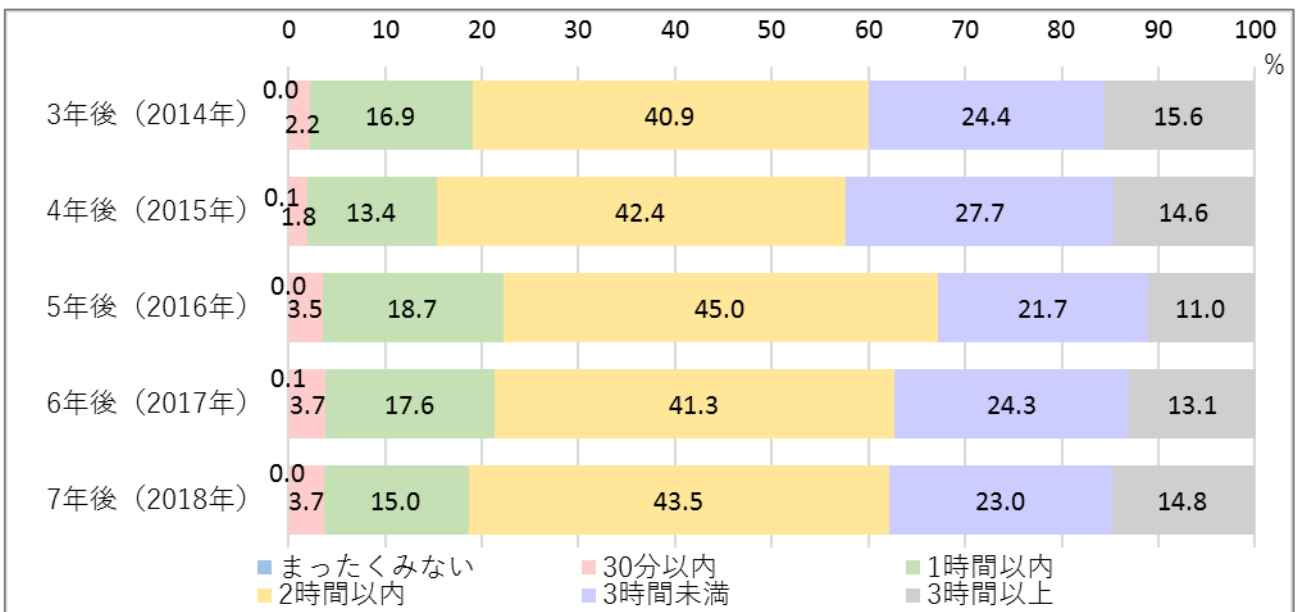
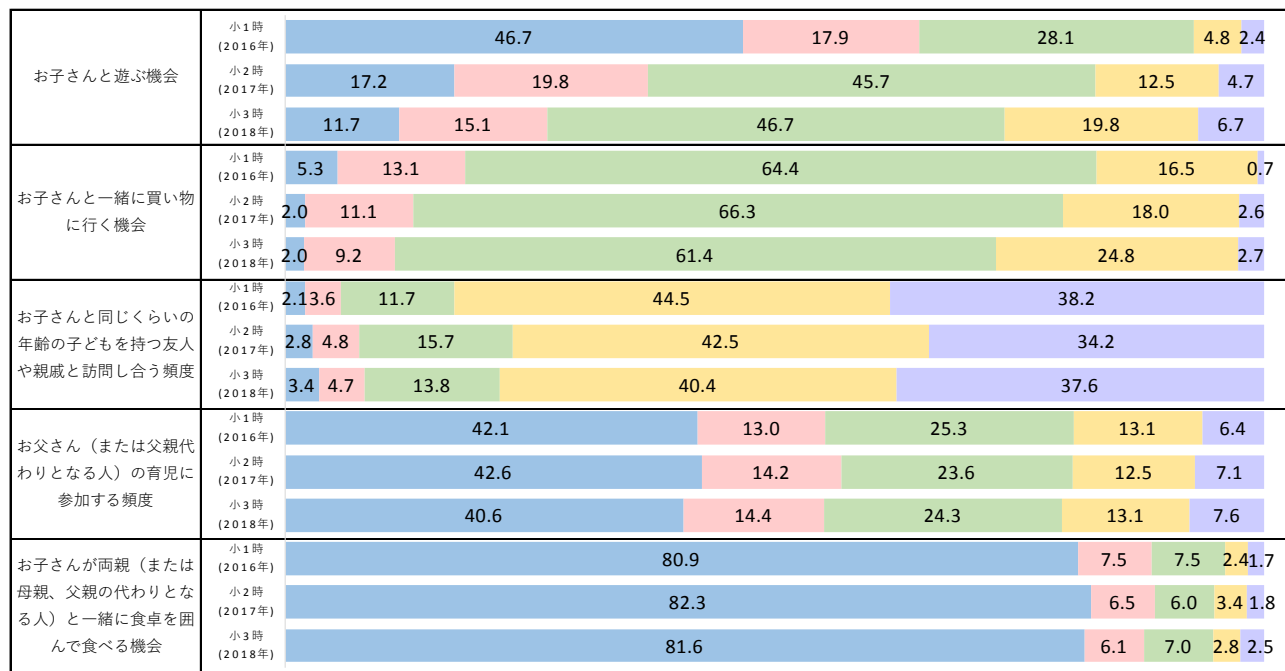


図 2-2 テレビ・インターネットの時間

2.3 「お子さんと遊ぶ機会」が年々減少

子どもの学年が進むにつれ、「ほぼ毎日」「お子さんと遊ぶ機会」が減少しています。また、「お子さんと一緒に買い物に行く機会」も「週に1~2回」が減少する一方、「月に1~3回」が増加し、子どもと親と一緒に行動する機会が少なくなっています。「父親の育児参加頻度」と「親子で食卓を囲む機会」は、さほど変化していないことがわかりました。



■ ほぼ毎日 ■ 週に3~4回 ■ 週に1~2回 ■ 月に1~3回 ■ めったにない

図 2-3 子どもと一緒に過ごす機会



3 子どもの発達と健康

3.1 子どもの適応と精神的健康は年々、支援の必要性が低くなっている

子どもの適応と精神的健康について、国際的に広く利用されているSDQ日本語版を使って評価しています。SDQ日本語版は「情緒」、「行為」、「多動・不注意」、「仲間関係」、「向社会性」の5領域からとらえます。「情緒」は抑うつや不安など情緒の問題、「行為」は反抗挑戦性や反社会的行動、「多動・不注意」は不注意や集中力の欠如、「仲間関係」は友人からの孤立や不人気など、「向社会性」は協調性や共感性をそれぞれ意味します。「向社会性」のみ点数が低いほど、それ以外の項目は点数が高いほど、支援の必要性が高いことを示します。

図3-1は、これまでの経年変化とMoriwaki Aらの全国の小学1年から3年生9,968名を対象とした調査結果（赤）^{*1}を示しています。ほとんどの項目において小学校入学前と比べ、入学後は支援の必要性が低くなっています。ただ、全国の小学1年生から3年生の結果と比較すると、とりわけ、福島の子どもの「行為」の領域において支援の必要性が高いという結果が示されました。

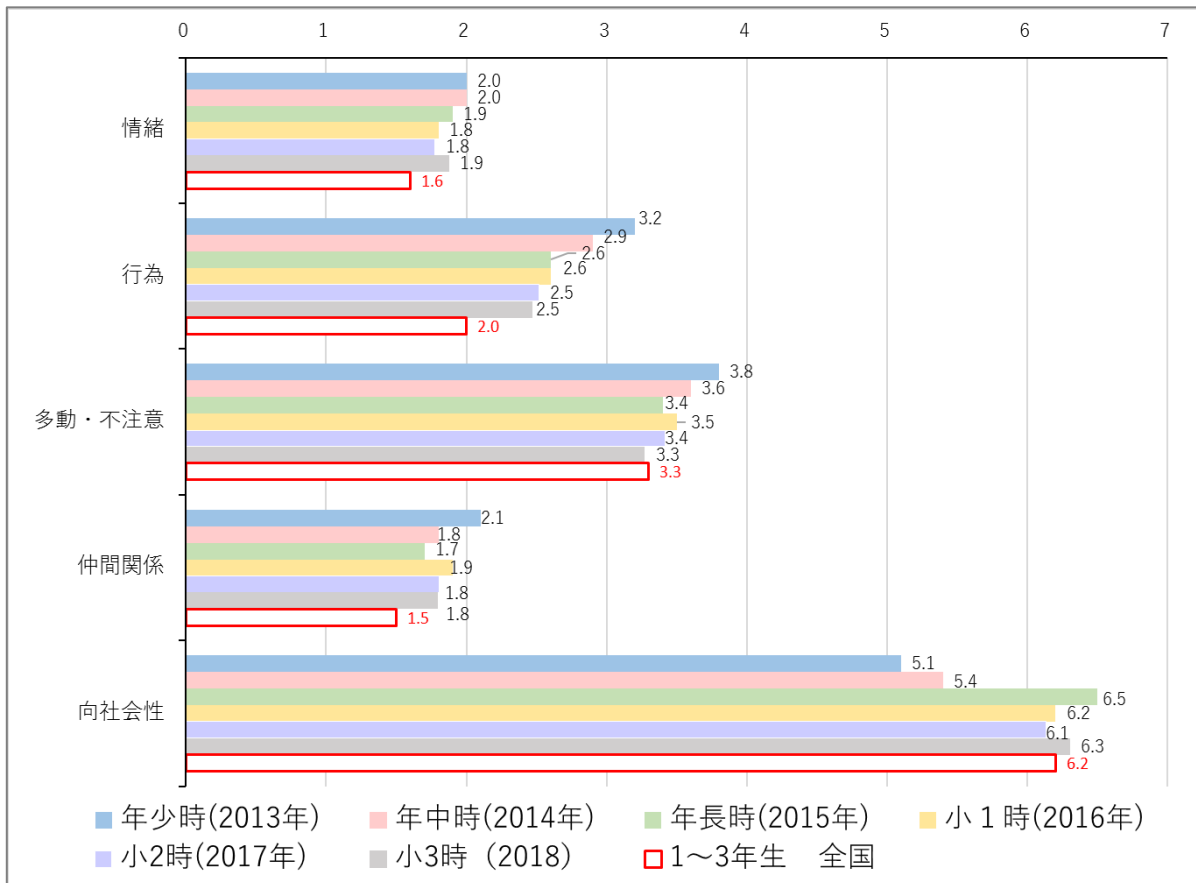


図 3-1 SDQ 得点

*1 Moriwaki A and Kamio Y, 2014, Normative data and psychometric properties of the strengths and difficulties questionnaire among Japanese school-aged children, Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health,21;8(1):1. doi: 10.1186/1753-2000-8-1.

3.2 SDQ 総合得点は、女子は全国調査より「正常」の割合が高く、男子は低い傾向

SDQ の 5 領域「情緒」、「行為」、「多動・不注意」、「仲間関係」、「向社会性」のうち、「向社会性」以外の 4 領域の点数を合計したものを、「SDQ 総合得点」と言います。SDQ 総合得点は、その得点に応じて「正常」「境界」「臨床」に分けられます。図 3-2 は、SDQ 総合得点の経年変化を男女別に示したものです。

結果は、女子の「正常」の割合は増加し、前掲の Moriwaki A らの全国調査と比較してもその割合が高いことを示しています。一方、男子は小3になって「正常」の割合が少し増加しましたが、まだ全国調査と比較すると、低いことがわかりました。要するに、原発事故後の影響が男子の方により強く現れているということが言えます。

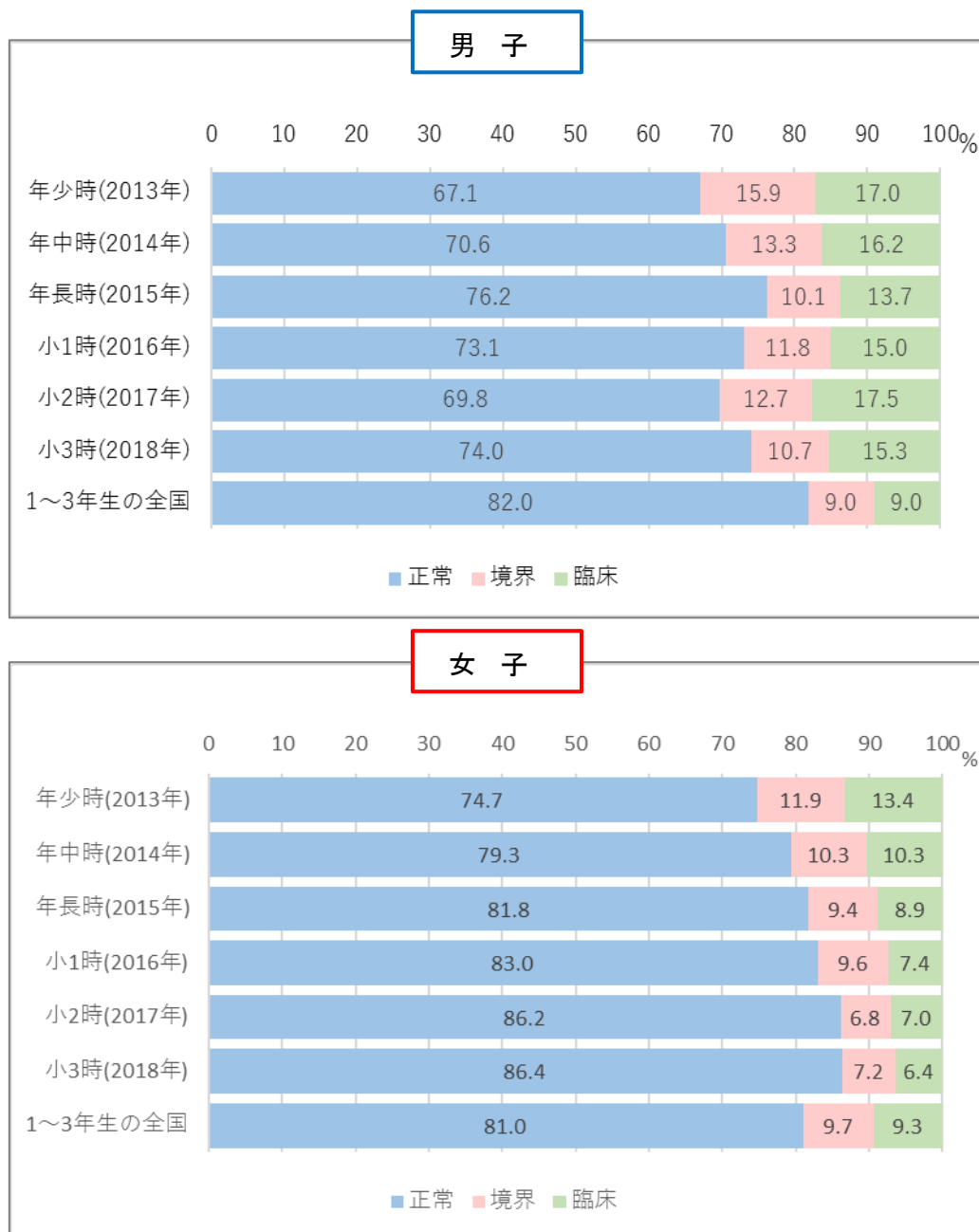


図 3-2 性別ごとの SDQ 総合得点

3.3 子どもの健康状態は「良好」が続いている

「良い」と「まあまあ良い」を合計した割合は2014年以降、続けて95%を超えており、良好な状態であることがわかります。

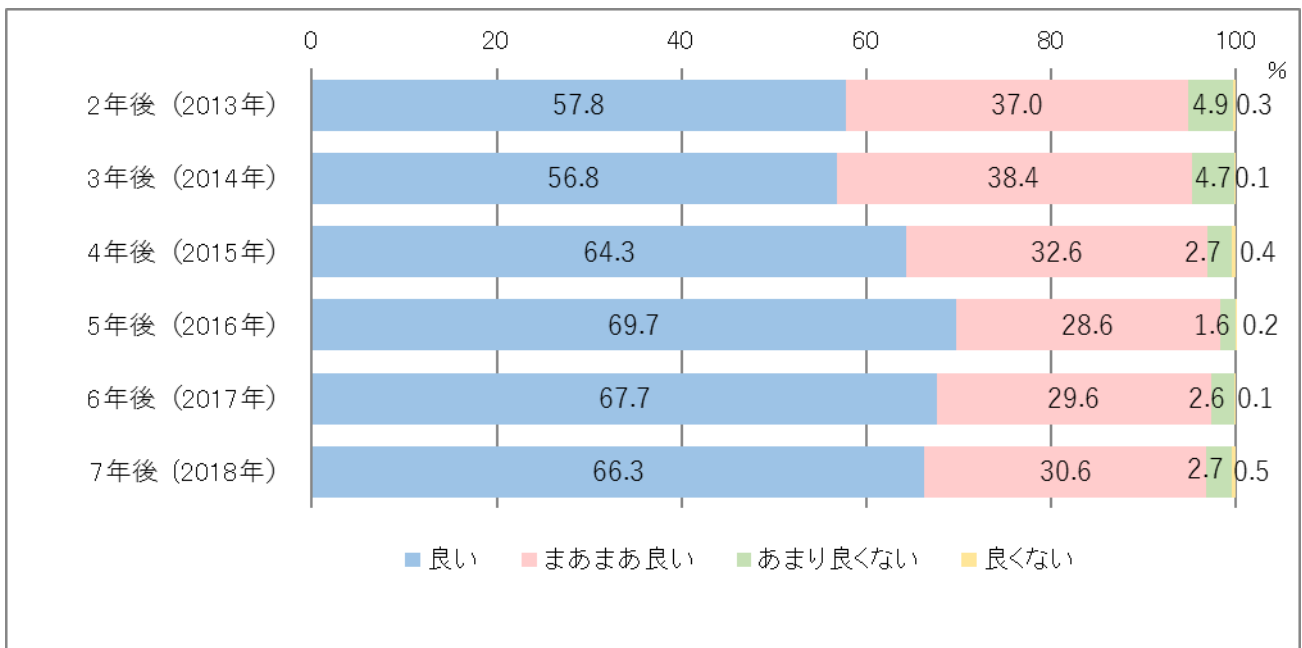
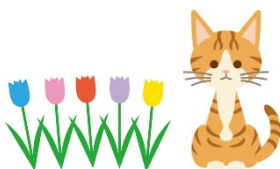


図 3-3 子どもの健康状態



3.4 子どもの症状のうち「頭痛」が年々増加傾向にある

身体症状は、ほとんどの項目で減少、あるいは横ばい傾向にあります。しかし、「頭痛」に関しては年々増加し、2016年の全国調査を上回っています。「皮膚のかゆみ」「疲れやすい」「食欲不振」「眠れない」についても、全国調査より高い値になっています。

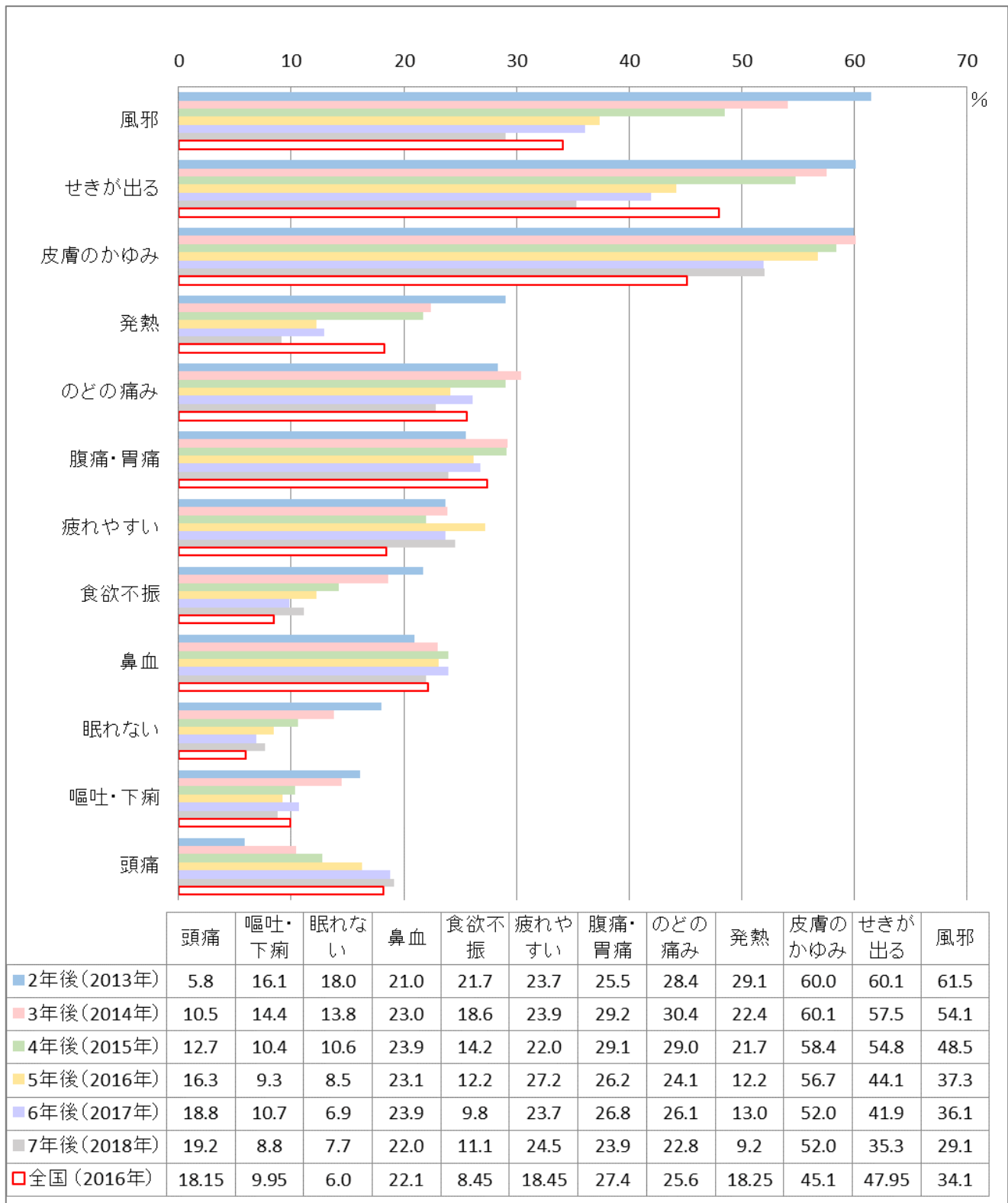


図 3-4 直近半年間での子どもの症状

* 「よくある」+「ときどきある」の割合

4 母親の心身の健康

4.1 母親の健康状態もおおむね良好

母親の健康状態について「良い」と「まあまあ良い」を合計した割合は、2015年以降継続して8割を超えており、おおむね良好であることがわかります。

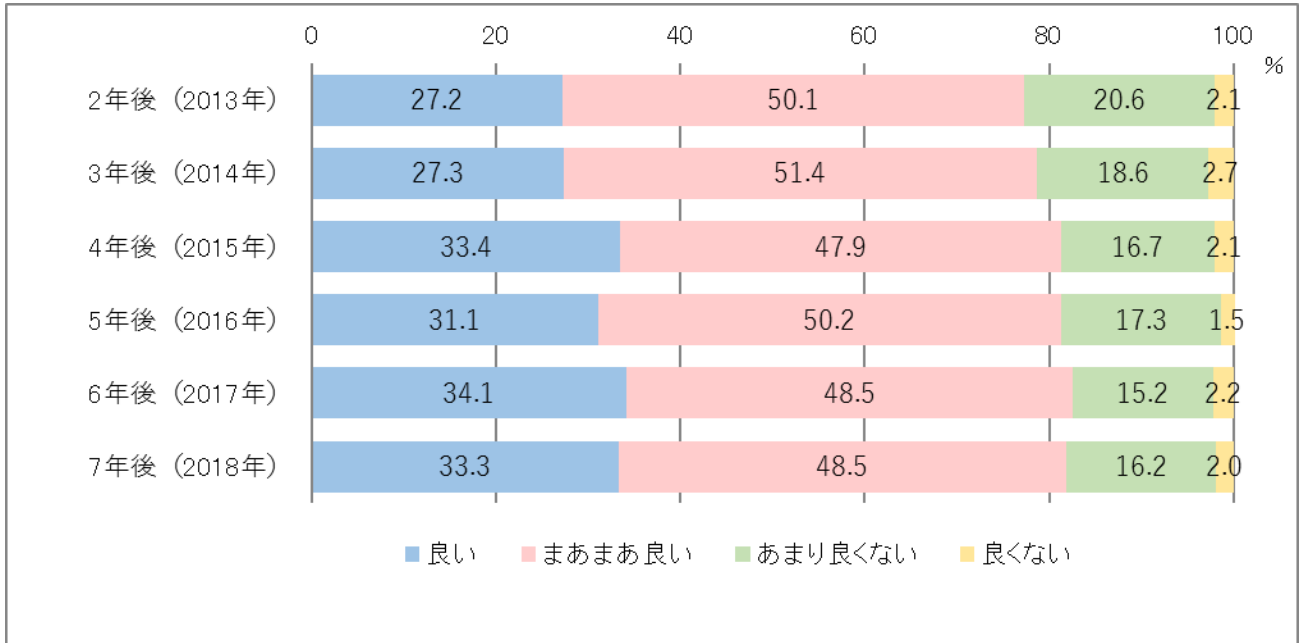


図 4-1 母親の健康状態



4.2 母親の症状の上位3位は昨年同様「肩こり」「頭痛」「腰痛」

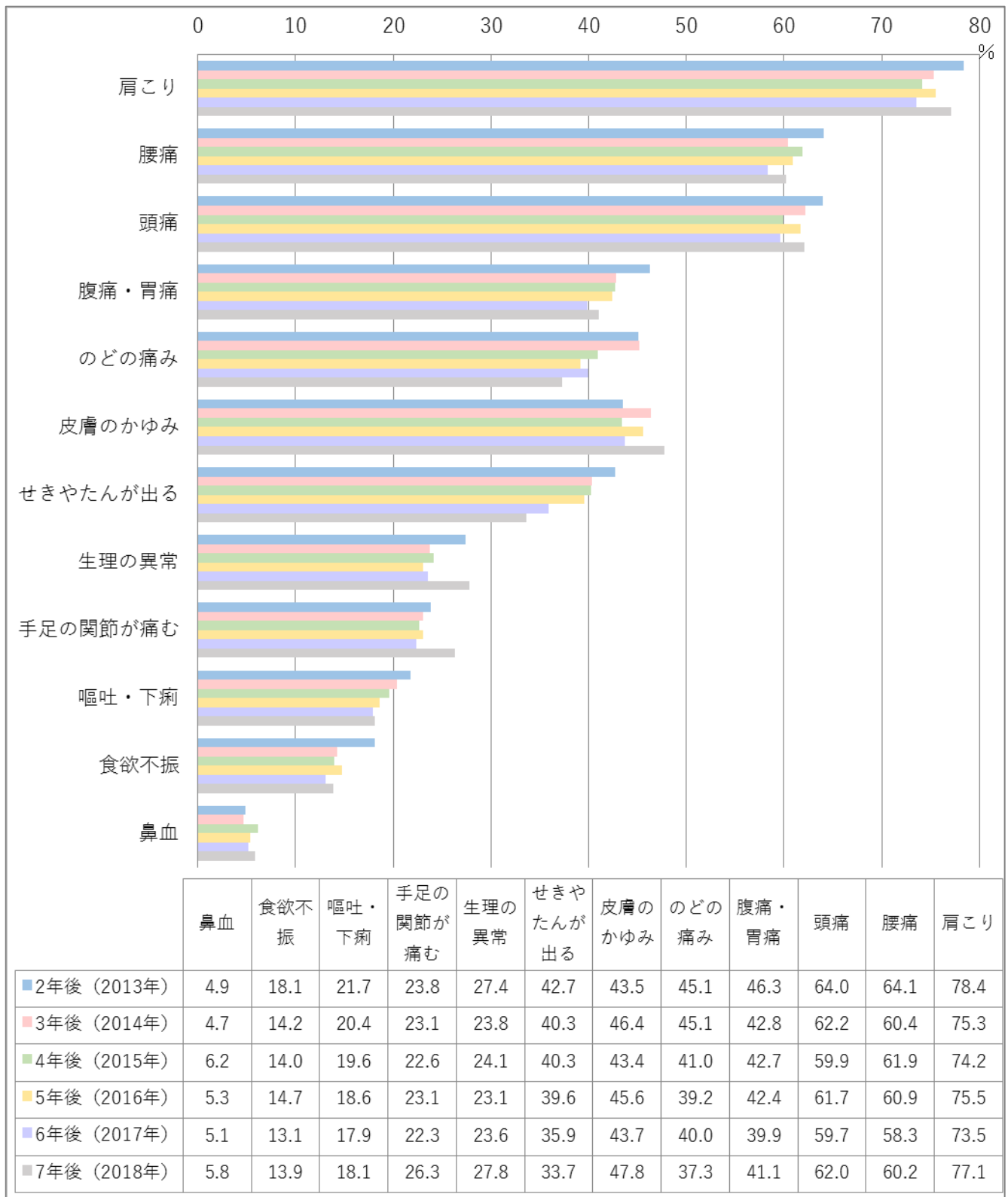


図 4-2 直近半年間での母親の自覚症状

* 「よくある」 + 「ときどきある」の割合

4.3 母親の心の状態は安定している

下記6項目は、心の健康状態を調べる際に広く利用される指標（K6）です。原発事故直後から半年後にかけて母親の心の状態は不安定であったが、その後、安定してきました。ただ、「神経過敏」「気分が沈み込む」「何をするのも骨折り」の3項目で「いつも」「たいてい」「ときどき」が2割以上あることを今後も注視したいと考えています。

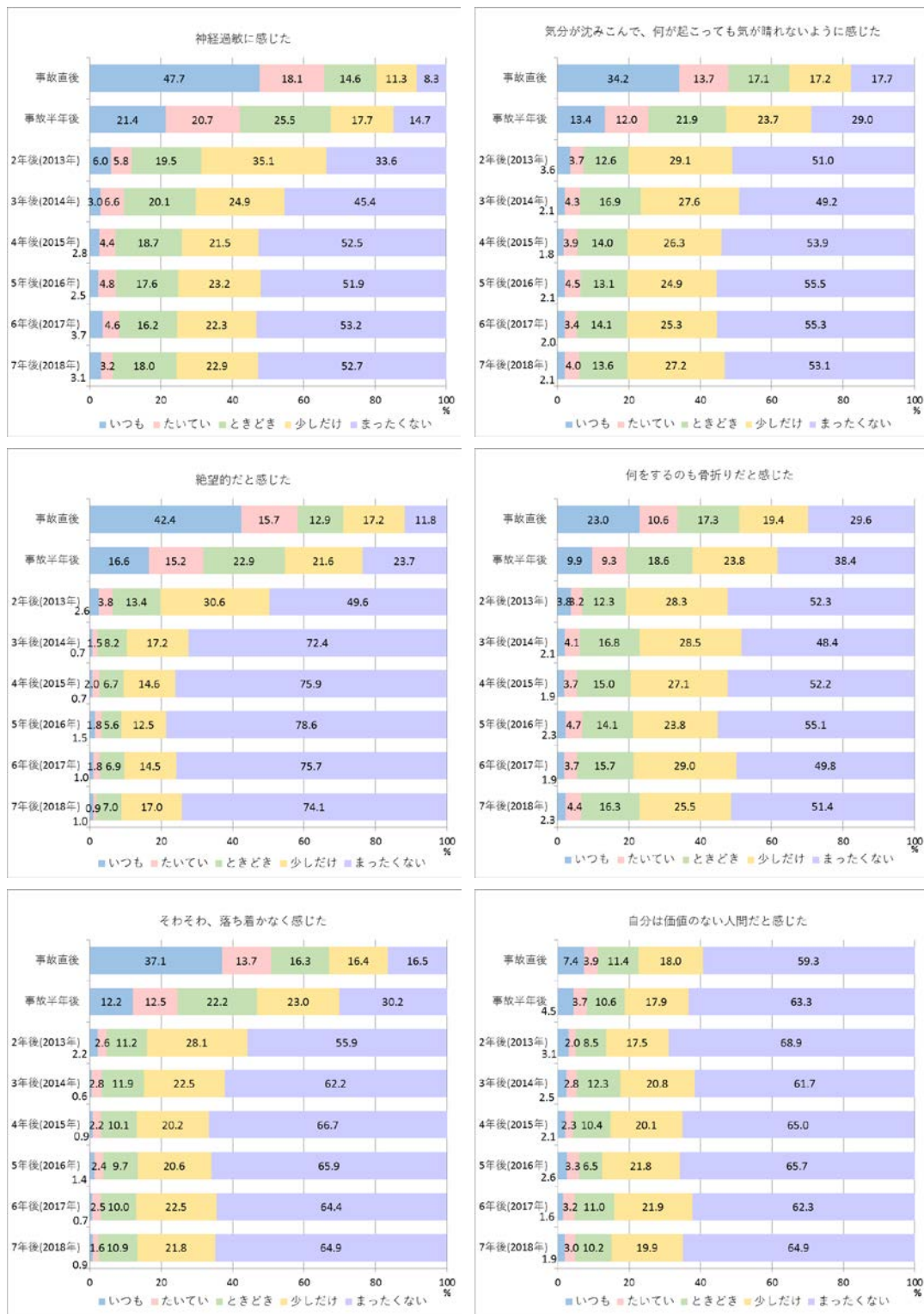


図 4-3 母親の心の健康状態

4.4 災害後の心の健康状態という点では、まだ影響が残る

下の項目は、災害後に特化した心の健康状態を調べる指標（SQD）です。図 4-3 の一般的な心の健康状態を評価する指標（K6）だけを見ると、福島の母親の心の状態は安定しているようにみえますが、6 割以上の母親が「イライラ・怒りっぽい」「疲れやすく身体がだるい」と訴えており、「寝つけない・途中で目が覚める」も約 4 割が感じています。

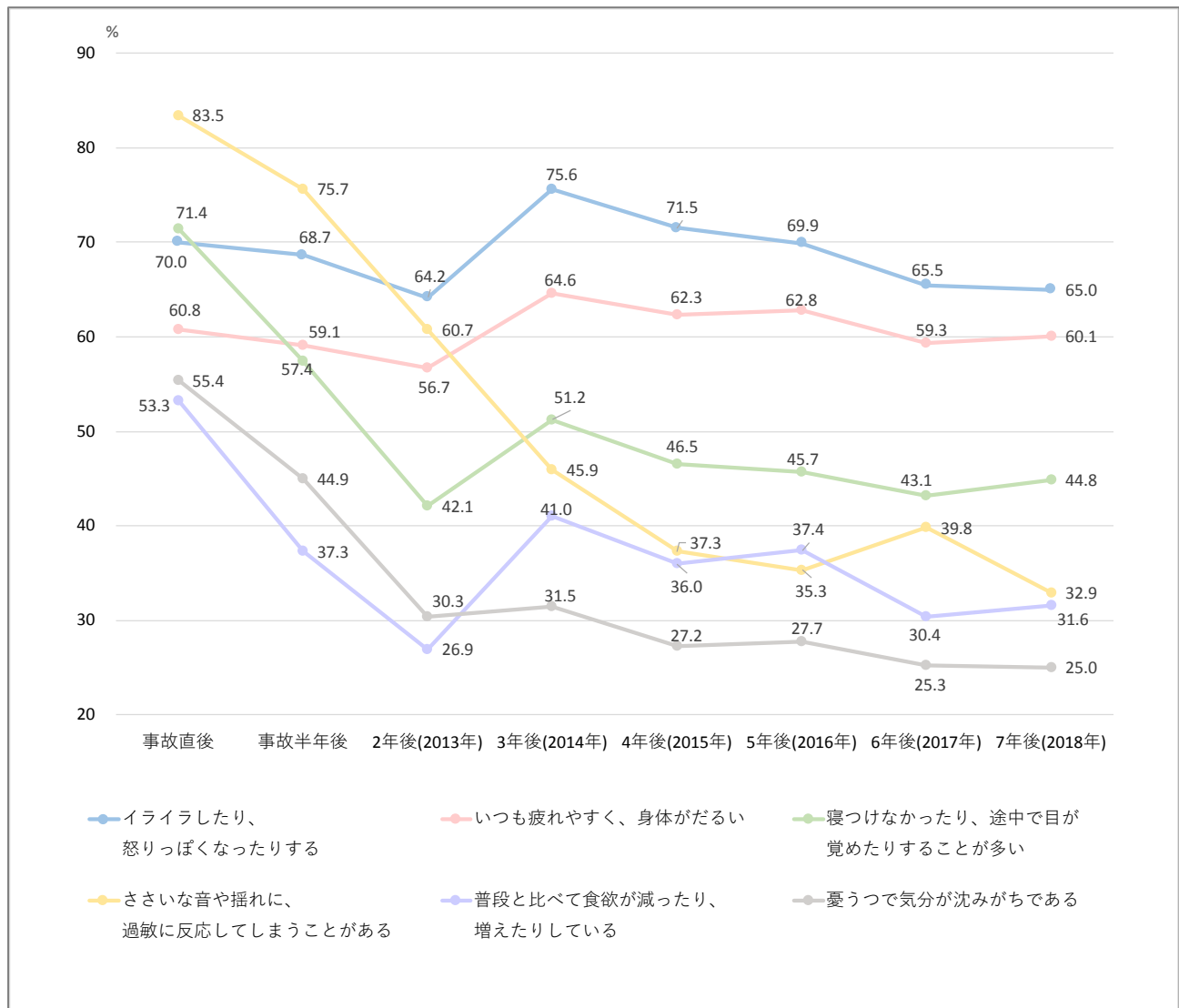


図 4-4 災害後の母親の心の健康状態

* 「よくある」+「ときどきある」の割合

5 原発事故後の生活変化

5.1 放射能汚染の深刻度は徐々に緩和されているが、依然 3 割の方が深刻

「お住まいの地域の放射能汚染について、どの程度深刻だと考えているか」については、「深刻ではない」「あまり深刻ではない」が増加傾向です。一方、事故から7年が経過しても、ほぼ3割の方が「深刻」「ある程度深刻」だと考えています。

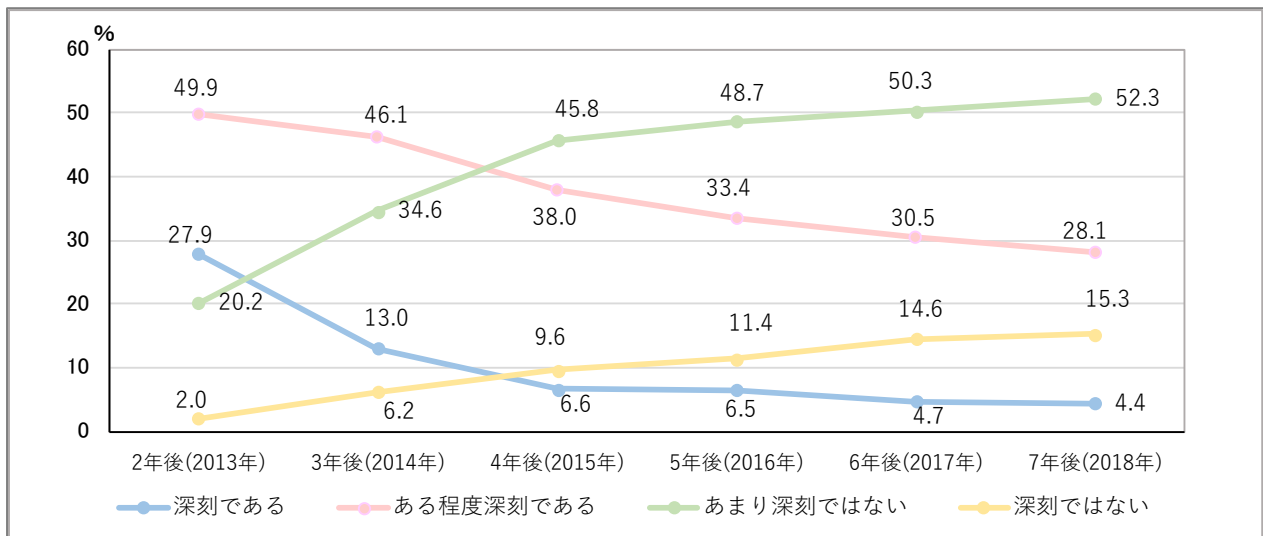


図 5-1 放射能汚染の深刻度

5.2 保養に「出かけていない」方が増加する一方、一定割合の方は「よく出かける」

昨年から「出かけていない」という回答がもっとも多くなり、「たまに出かける」方も減少しています。ただ、「よく出かける」方も一定割合を保っています。

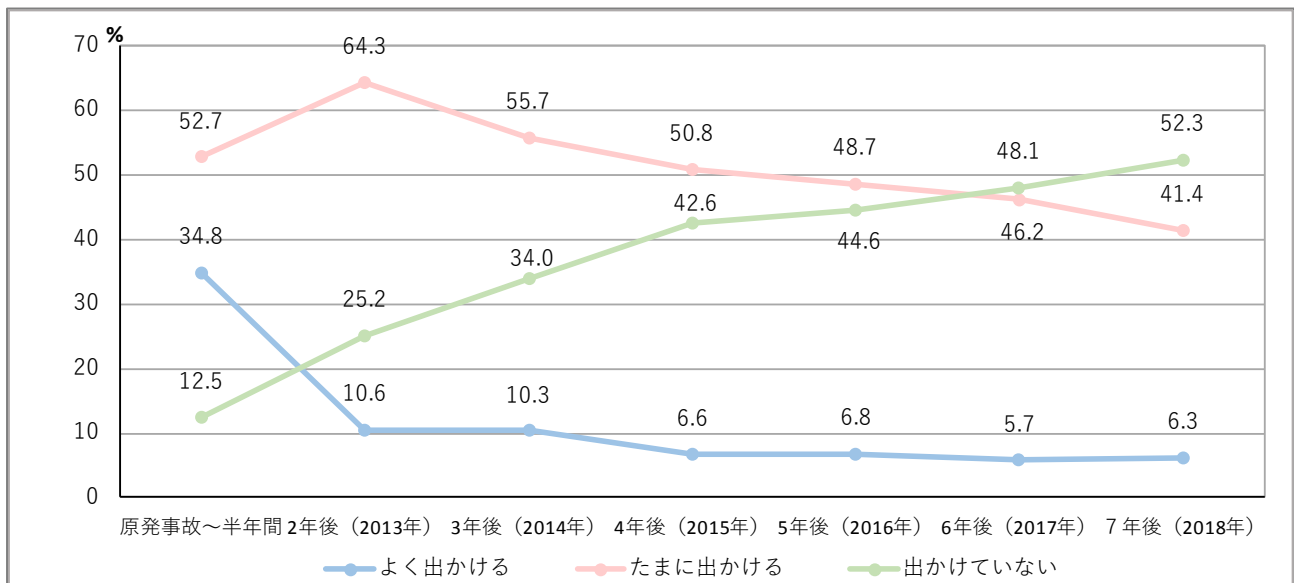


図 5-2 保養の頻度

5.3 「補償不公平感」「情報不安」が増加

原発事故後の生活変化には5つの傾向が確認できます。

- 1つめは、事故後7年が経過しても約6割の人が「あてはまる」と回答している項目（「補償をめぐる不公平感」「放射能の情報に関する不安」）です。昨年に比べて増加。
- 2つめは、ゆるやかな減少傾向にありながらも約4割から半数近くの方が「あてはまる」と回答している項目（「健康影響への不安」「経済的負担感」「保養への意欲」「子育てへの不安」）です。
- 3つめは、「あてはまる」が急激に減少し、その後、横ばいとなっている項目（「地元産の食材を使用しない」「洗濯物の外干しをしない」「避難願望」）です。
- 4つめは、事故直後から該当者が少ないながらも、一定の割合で推移している項目（「放射能への対処をめぐる配偶者、両親、周囲の人との認識のずれ」）です。
- 5つめは、「いじめ・差別への不安」は、一昨年までは上記の「2つめ」の傾向に該当していましたが、昨年の福島からの避難者へのいじめ報道の影響で急増し、今年は横ばいとなっています。

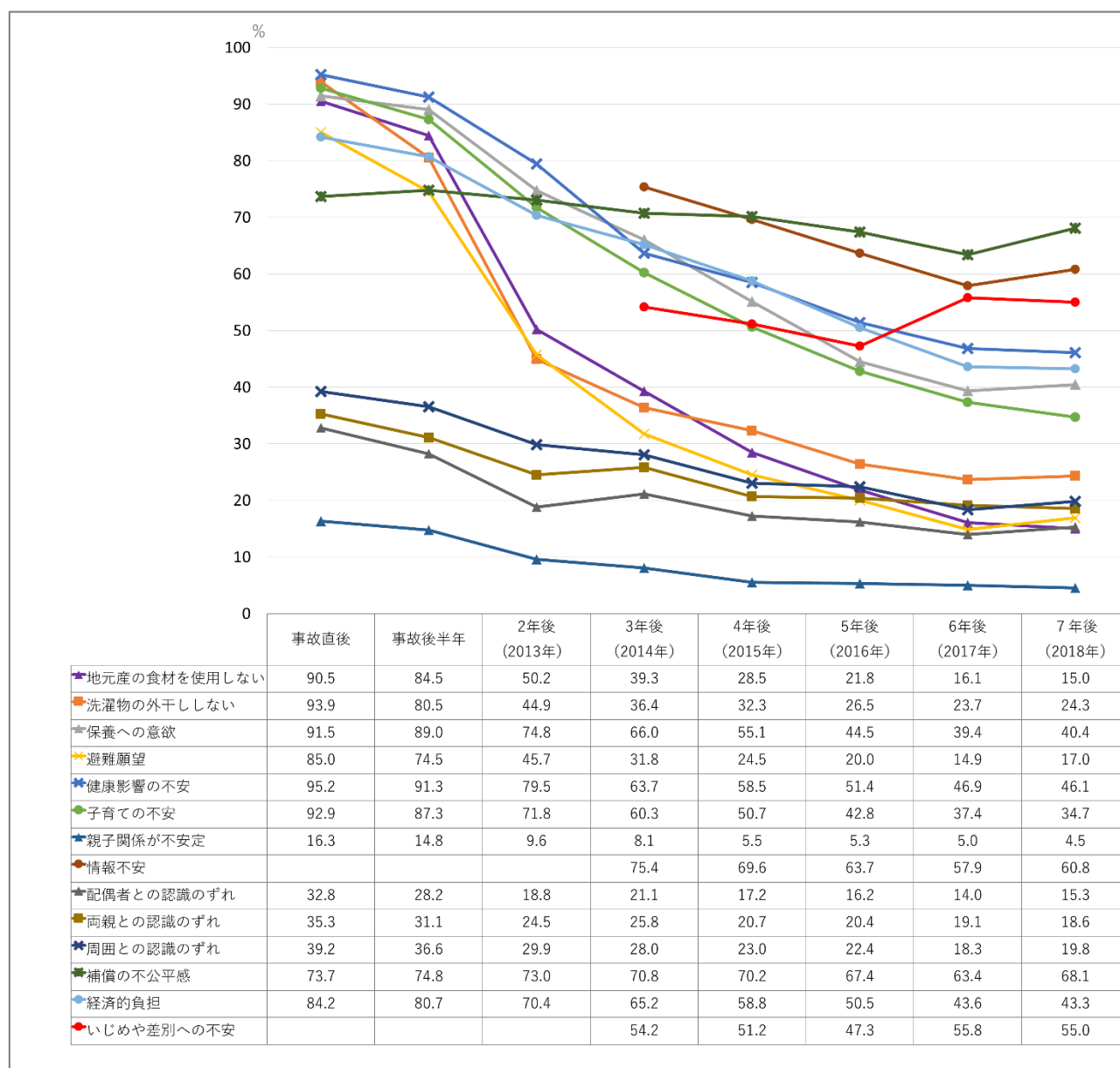


図 5-3 原発事故後の生活変化

* 「あてはまる」 + 「どちらかといえばあてはまる」の割合

5.4 子どもの甲状腺検査の結果

お子さんの甲状腺検査の結果については、「A1判定」が減少する一方、「A2判定」「B判定」が、徐々に増加していることがわかりました。「C判定」の回答はありませんでした。また、甲状腺検査を受けていない方も増えています。

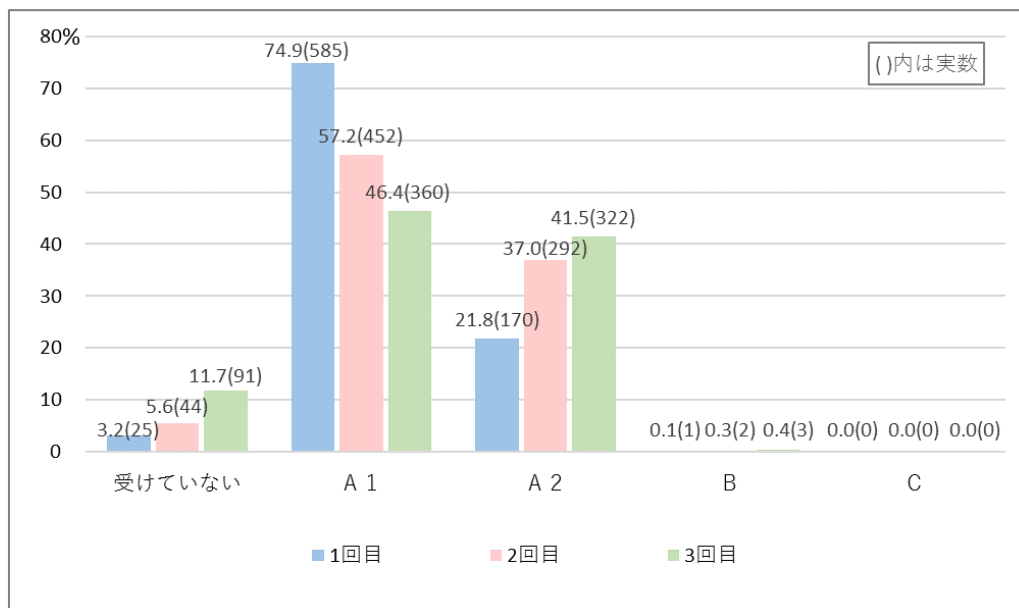


図 5-4 子どもの甲状腺検査の結果

- (A1) : 結節又はのう胞を認めなかったもの
- (A2) : 結節 (5.0mm 以下) 又はのう胞 (20.0mm 以下) を認めたもの
- (B) : 結節 (5.1mm 以上) 又はのう胞 (20.1mm 以上) を認めたもの
- (C) : 判定甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要するもの

5.5 甲状腺検査の「現状維持」と「拡充」を求める声が9割

甲状腺検査を「拡充したほうがいい」という回答は、「縮小したほうがいい」を大きく上回っています。また、「その他」の意見の代表的なものを以下に記します。

「他県のデータがないので、普通なのかそうでないのか分からない。」「大人も(検査の)対象にしてほしい。」「信用していないので個人的に医療機関や保養先で受けさせています。」「市町村により健康の基準や検査内容が違いすぎる。」「他県でも受けやすくしてほしい。」「希望者のみでも良い。」「他の県民もやってほしい。」「もっと回数を増やしてほしい。」「画像をちゃんとみながら説明してほしい。」

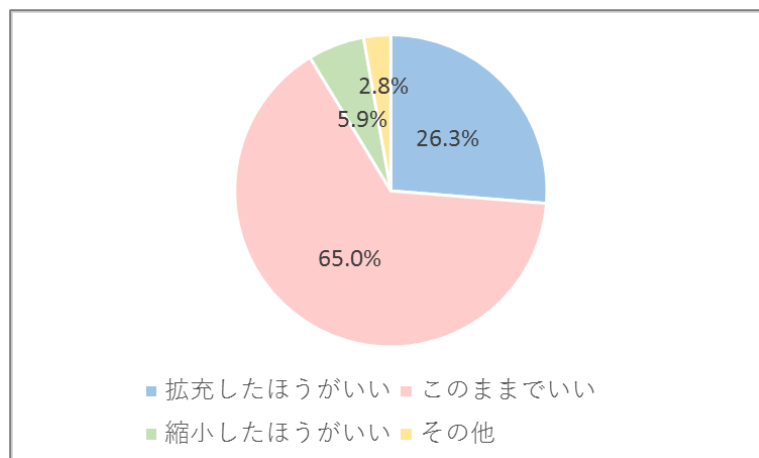


図 5-5 福島県「県民健康調査」甲状腺検査について

5.6 放射能に関する情報源は「テレビ」が中心で、次いで「役所・医療機関」「新聞」「インターネット」

放射能に関して参考になっている情報源を複数あげてもらったところ、テレビが75.9%で最も多く、次いで、役所・保健所・医療機関（58.2%）、新聞（48.8%）、インターネット（47.1%）でした。

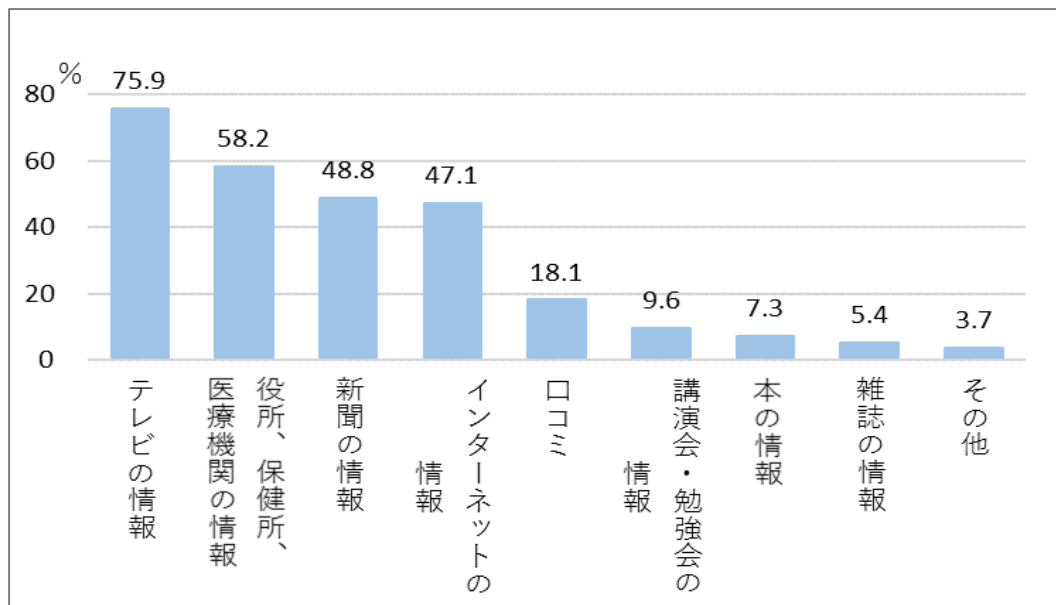


図 5-6 放射能に関する情報源

5.7 5割以上が「子どもの将来の身体の健康」への影響を懸念

すべての項目において、年々その割合が低下していますが、依然として5割以上の母親が「子どもの将来の身体の健康」への影響を懸念していることがわかりました。

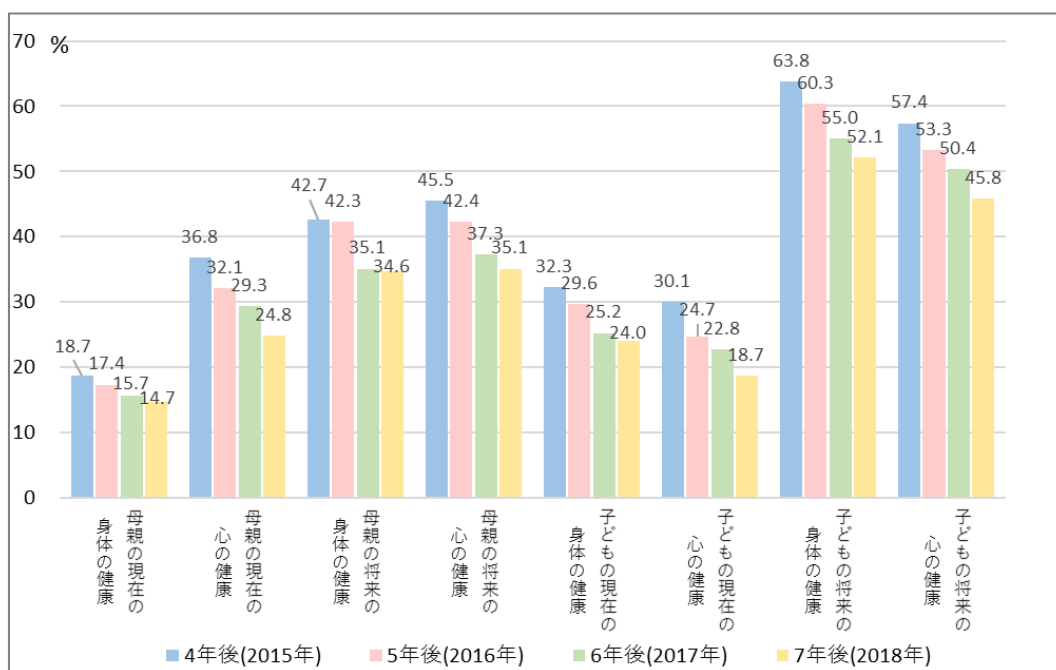


図 5-7 健康に対する放射能の影響度

* 「影響がある」 + 「少し影響がある」

5.8 3割以上の方が居住地で原発事故や放射能について「話題にしにくい」と感じている

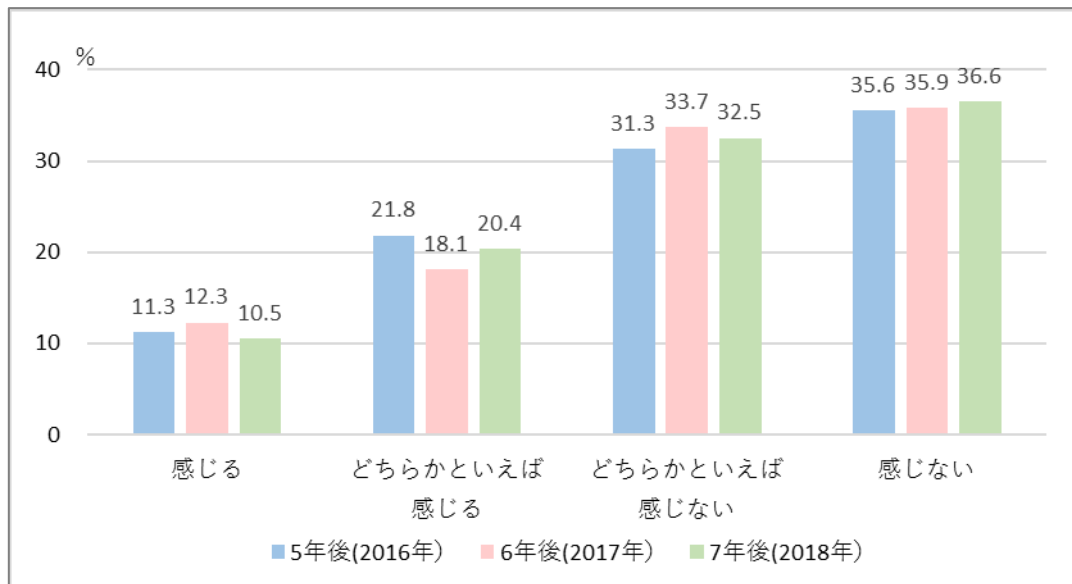


図 5-8 原発事故や放射能について話題にしにくい

5.9 居住地で8割以上の方が原発事故の風化を「感じる」と回答している

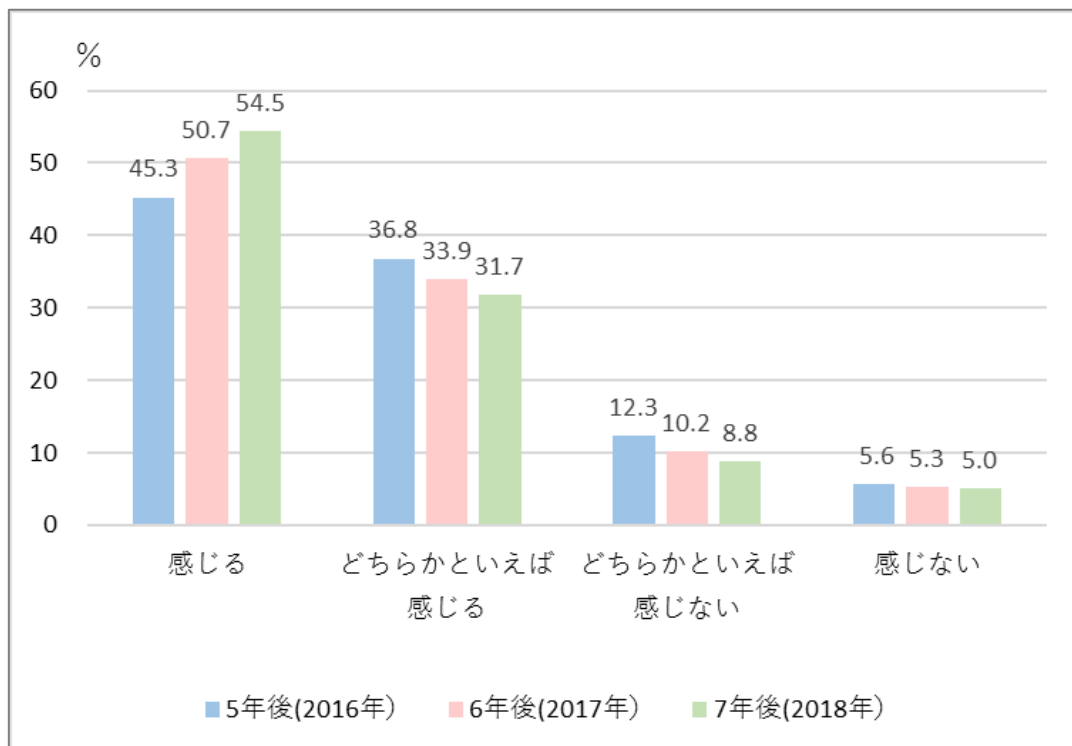


図 5-9 原発事故の風化

5.10 市町村、福島県への評価は徐々に改善

原発事故後の取り組みについては、「市町村」「福島県」は半数以上の方に評価されています。また、「国」に対しても3割の方が評価すると回答しています。一方、「東京電力」については、2割程度の評価にとどまっています。

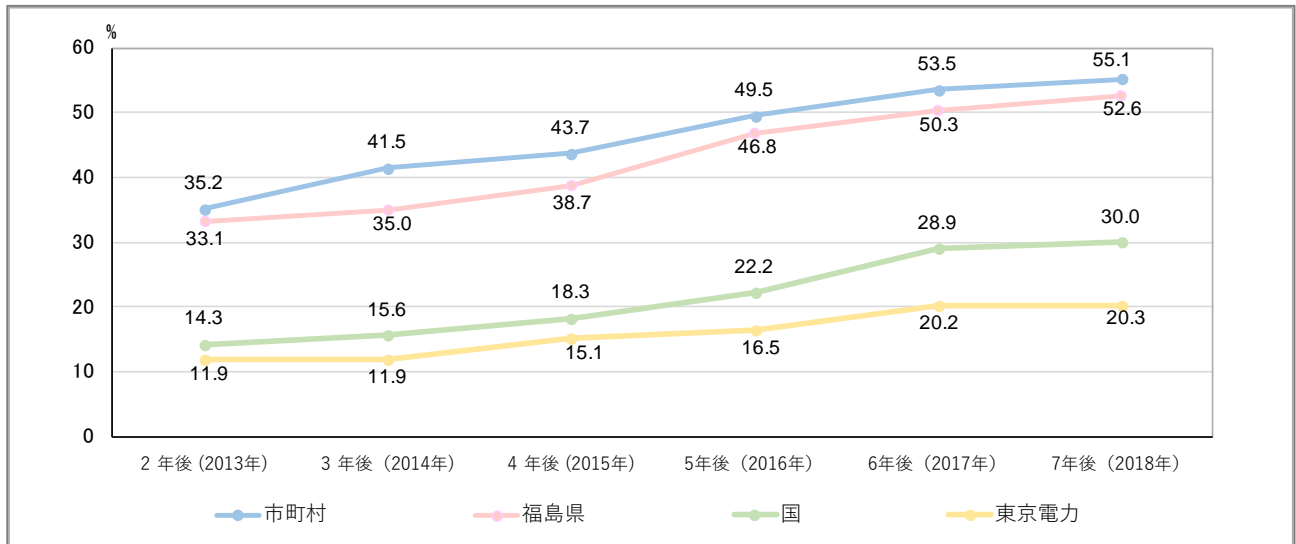


図 5-10 行政と東京電力への評価

* 事故後の取り組みを「評価する」+「ある程度評価する」の割合



6 地域とのかかわりと居留意識

6.1 地域とのかかわりが強い

8割以上の方が「親子会・PTA」に、7割以上が「地区会・町内会・自治会」に加入しており、地域とのかかわりが強まっていることがわかりました。「趣味・娯楽・スポーツなどの団体」への加入が年々増加し、「子育てサークル・ママ友サークル」が減少していることから、子どもの成長による地域とのかかわりの変化がみられます。

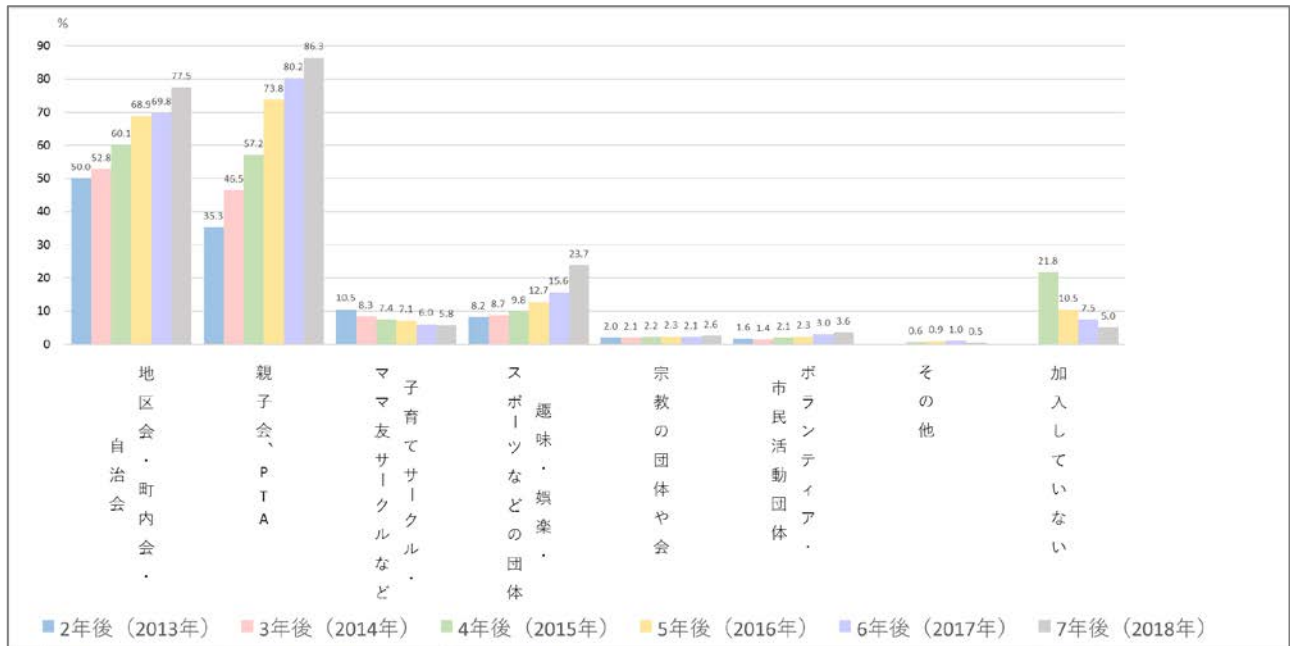


図 6-1 加入している団体・組織

*「その他」と「加入していない」は第3回からの調査のみ

6.2 居留意識は「住み続けたい」が圧倒的に多い

現在の地域での居留意識では、「ずっと住み続けたい」「当分住み続けたい」の割合が9割以上に上る一方で、「できれば引っ越したい」「すぐ引っ越したい」も約1割の方にみられました。

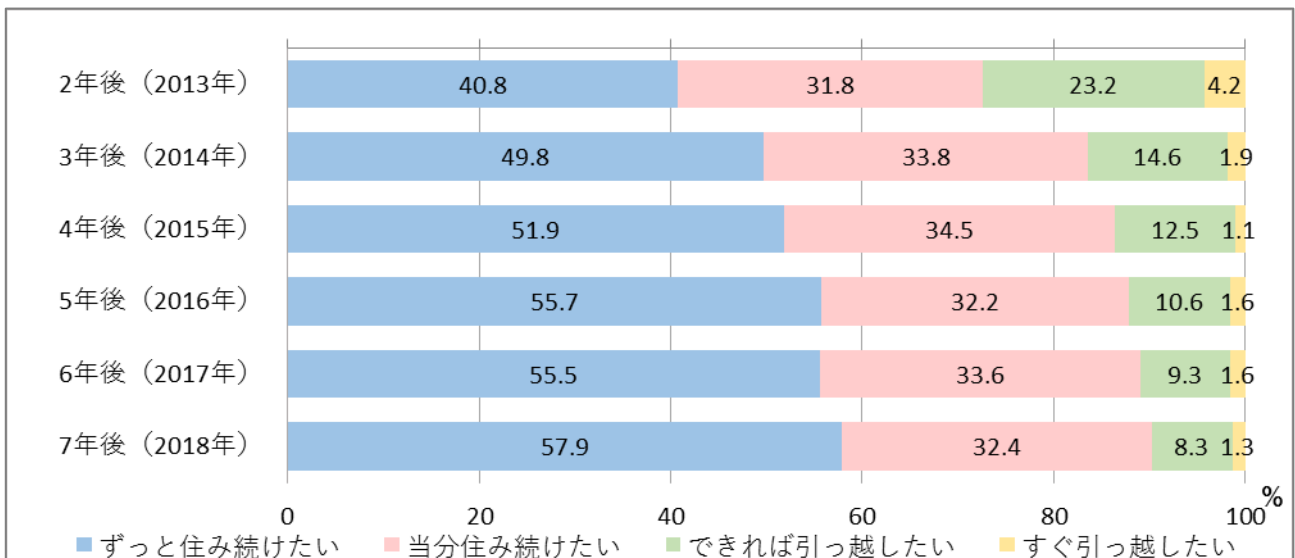


図 6-2 現在の地域での居留意識

6.3 地元への愛着、誇り、人間関係の良さなど肯定的な回答が多い

事故前の水準にはまだ戻っていないものの、原発事故後、低下した地域愛着度は回復しつつあります。

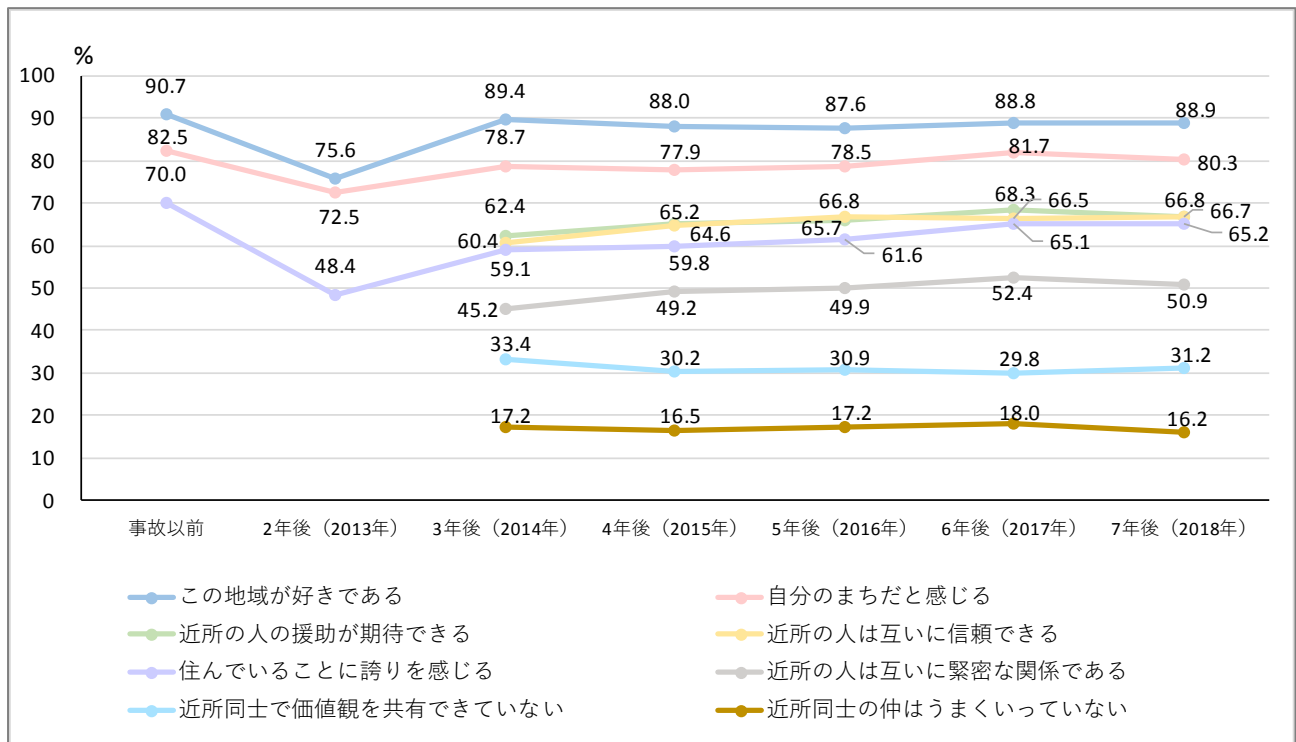


図 6-3 地域への愛着や人間関係の良さ

* 「あてはまる」 + 「どちらかといえばあてはまる」の割合



7 回答者の特性

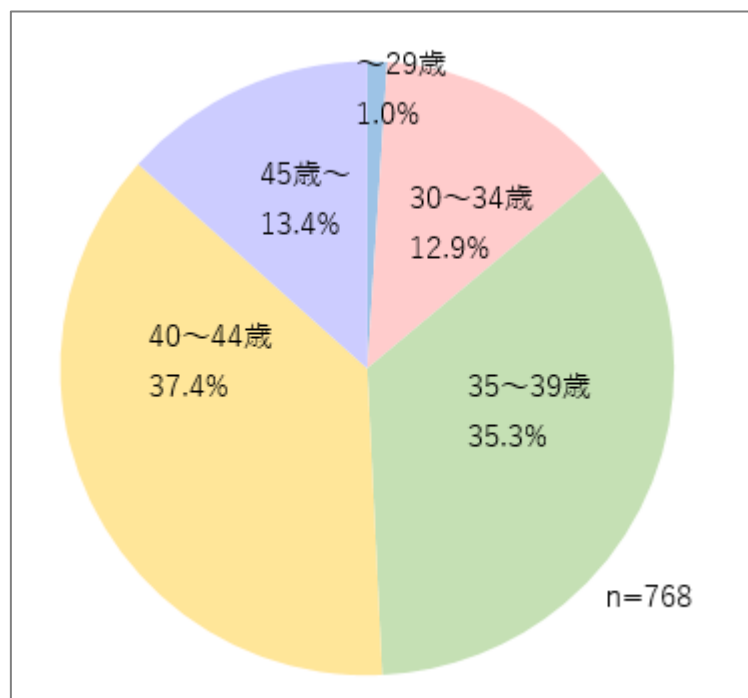
子どもとの続柄

		母	父	祖母	祖父	その他
	n=					
2018年調査	818	772(94.4)	42(5.1)	3(0.4)	1(0.1)	0(0)

母親の婚姻状況

		既婚 (有配偶者)	既婚 (離・死別)	未婚
	n=			
2018年調査	772	716(92.7)	48(6.2)	8(1.0)

母親の年齢構成



8 自由回答欄の声

自由回答欄には多くの意見が寄せられました。これまでの調査の自由回答記入数は以下の通りです。今回の第6回調査の自由回答については、16項目に分けて紹介します。数字は、「福島子ども健康プロジェクト」事務局の3名が読んで数えた意見数です。ただし、重複を含んでいます。

	回答総数 (2018/3/31 時点)	自由回答 記入数	記入率	文字数	一人当たり 文字数
第1回調査	2,628	1,203	45.8%	252,047	209.5
第2回調査	1,606	718	44.7%	153,938	214.4
第3回調査	1,209	746	61.7%	151,677	203.3
第4回調査	1,021	612	59.9%	117,171	191.5
第5回調査	912	549	60.2%	100,690	183.4
第6回調査	819	445	54.3%	81,588	183.3

自由回答分類	言及した 自由回答の数 (第5回調査)	言及した 自由回答の数 (第6回調査)
子どもの将来の健康不安・補償不安	109	89
風化を感じる	105	71
放射線量・土壌・食料への不安	53	62
賠償金不満	64	52
差別不安	162	50
生活が元に戻ってきている	51	40
国、福島県、市町村、東電の対応	37	34
情報不安	13	26
原発への否定的な意見	14	20
甲状腺検査	27	18
避難と帰還をめぐる思い	13	16
現在の健康	—	15
事故を思い出す	—	15
風評不安	19	15
保養	—	11
地震への不安	46	7

<p>子どもの 将来の 健康不安・ 補償不安 89件</p> <p>今は健康でもか 将来は健康不安 何かあったとき 何かあったとき 補償はあるのかと いう不安</p>	<p>このまま健康で、大人になっても何もないことを願います。子供の成長に伴い、この子の世代の子供の成長の遅れを感じます。姉2人の同時期と比べるととても幼く、できることも少ないように感じます。（発表会や作品などから）震災後、のびのび遊ばせてやれなかった影響なのかな、なんて思ったりします。（当時2才でした）大人になるまでにできるようになることを願います。小さい時の過ごし方の重要さに改めて気づきました。今後、なるべく色々な体験をさせてあげたいです。元々、不安が強いタイプですが震災の影響もあるのかな？とも思います。</p>
	<p>子供たちの放射能の影響が20才を過ぎてから出た場合の医療費など手厚くしてほしい。未成年の場合だけでなく、その後も、見てほしい。</p>
	<p>最近、私のまわりでは原発事故の話などはまったく出ず、風化を感じますが、子どもが甲状腺検査でのう胞の判定が出た時は、今後の健康影響についてすごく不安になりました。何かあった時のもっと明確な補償制度を示してほしいと思います。</p>
	<p>普段は原発事故の事は忘れてるし、子供達が不安を訴えてくるような事も一度もありません。でも、ふとした時に子どもの健康や将来について不安になり、このままでいいのかな、正しいのかな、後悔することになったら嫌だから、今できることをしておかなければならないのでは、とあせるような気持ちになります。</p>
	<p>まわりでは風化していても、いつまでも心の底には不安を抱えているのは福島にずっと残って生活している人たちだと思います。賠償の話が目立ちがちですが、未来に向けて、放射能による影響が出たときの補償（子どもたちへの）がきちんと確立されればと思います。</p>
	<p>見えない放射能相手なので、今後、子ども達の体にどのように影響してくるのかがやはり心配です。何事もないことを祈るばかりです。前例がないだけに、“人体実験されている”なんてことを言う人がいますが、本当にそうなのかも一と怒りも…。この不安を誰にぶつけていいのかわかりません。それだけです。</p>
<p>心のどこかでは、子供たちが成長した時にいつか、なんらかの影響が出るのではないかと不安に感じている状況です。何かあった時に、国や県、市町村などがきちんとサポートしてくれるのか？というのも疑問に思ったりもしています。本当に不安なことが消えて安心して暮らしていけるのは何年後になるのか。子供たちが健康に成長してくれることを祈るばかりです。</p>	

<p>風化を感じる 71件</p> <p>原発事故 を忘れてる</p>	<p>引越し先での生活が3年目になります。日々の仕事をしていると、原発事故の事や震災の事を通り過ぎて行きます。ふと、忘れてる自分がいて、人間の記憶はもたないなと思ってしまいます。</p>
	<p>5年を過ぎた頃から、テレビ、ニュースなどで取りあげられなくなってきた。風化を感じる。5年たっても7年になっても何一つ変わってはいない。</p>
	<p>放射能問題に関しては、風化しているというか、もう忘れてしまっているような気がします。日々の暮らしの中で、精一杯ですし、子供のことや毎日のくらしで、放射能のことを考えている時間はほとんどありません。色々な考え方、価値観があると思いますが、日々の暮らしを楽しんで、毎日明るく前を向いて生きていきたいと思っています。</p>
	<p>7年たち、すっかり風化しています。気にする人は変人のように扱われます。ガラスバッジは何のために持たせているか？あまり関心をもたない人も多くなってきました。息子も戸外で遊ぶのを好み、私もあまり放射線を気にしなくなったため、とくに制限もなく遊ばせています。</p>
<p>公共の場に設置してある空間線量を知らせるメーターを見ても、事故や震災と関連づけて考える事が自分自身できなくなっている事に気づき、「風化」という言葉が身にしみて感じる。実際に住んでいる自分がこうなのだから、他地域にお住まいの方々にはどの程度のものなのか少し気</p>	

	<p>になる。風化した方が、子どもが将来県外へ出た時に受ける差別の不安は減るが、果たして本当にそれでいいのか悩むところだ。</p>
	<p>先日、阪神・淡路大震災のニュースを見ている時に、震災遺児の方が23年間抱えてきた思いを聞き、自分はまだ7年しか経っていないのに、忘れかけていることに、愕然としました。当時、2歳だった娘は、3.11のことは何も覚えていないので、私が覚えているうちに、我が子たちには、伝えていこうと切実に思いました。</p>
	<p>日々忙しく過ぎていくと、原発事故のことを忘れていることもあります。除染作業を目にしても、日常の一コマとなって、特別なこととして認識していないんだと思います。自分の中でも事故のことは風化しているんだと思いました。</p>
	<p>我が家の近くにあった避難区域に住まれていた方々の仮設住宅も無くなったりして、嬉しくはありますが、なんとなく原発事故の風化を感じたりもします。でも、原発問題に終わりはないと思いますので、これから風化させたくないと思います。</p>

放射線量・ 土壌・食料へ の不安 62件 減らない線量 除染されてい ない土地 土壌の除染土 地元の食料 への不安	<p>地元産の野菜も買う機会が増えてきましたが（安価なので）、でもこれを使っていいのか…とためらいはまだあります。洗濯物も外に干す気にはなかなか出来ません。見えないものだけに怖いなと思います。</p>
	<p>家庭ではなるべく福島の食材は使用していませんが、学校給食では地元の米ですし、検査をしているとはいえ、食材についても心配です。外での活動はほぼ震災前に戻っていますが、除染もほとんど終わっているけど、数値は下がっても一時的で、またしばらくすると上がっている所もあるようなのでいろいろな面で心配は尽きません。</p>
	<p>海の魚など心配で食べるのが少し心配です。（原発近くの海で水揚げされた魚）海も汚染されていると思うので、福島海は泳ぎに行けません。</p>
	<p>廃炉作業がこれから長く続き、少ないながらも放射能は出続けていると思っています。子供達の将来を考えれば他県への移住がよいのではと考えています。</p>
	<p>マスクと、水は、配給があっても良いと思う。水だけでも、家計は苦しくなる。食べ物までは、家計がまわらない。給食で地産地消するのは良いと思うけど、家庭では気をつけて、産地を見て買ったりしたい。子供達が成長するにつれ、食べものからの影響が心配になる。でも、目の前の生活も大切なので、…。家計を考えると、思うようにはいかない。</p>
	<p>住んでいる地域や自宅周りの除染も済みました。小学校に通っている息子たちや3才の娘も、ガラスバッジを配布され、測定結果をみると、年々、数値が下がってほっとしている気持ちもあります。スーパーで手に入る食材は検査してあり、安心だと、買ってみんなで食べていますが、以前のように測定する必要がなくなるよう、安心して食べ物が手に入る環境に戻ってくれたらと願っています。</p>
	<p>気にしているのは山林の線量ぐらいですが、子供が小学校の授業で何度も山に入るので、少し嫌です。でも、言い出せません。きのこ類を買うとき、地場野菜を買うときも躊躇します。学校給食では地元の食材を使うので、本当は嫌です。</p>
	<p>震災時は必死で乗り越えてきましたが、今になっても放射線に対しての不安は消えず、いまだに線量の高い場所もあり気持ちが落ち着くことはありません。</p>
	<p>いまだに自宅に除染で出た物が置いてある。早く片付けてほしい。除染した物を置いておくなら、除染した意味があるのかわからない。除染したものの、外に洗濯物は干したりしているが…。除染されていない場所（屋根、外壁など）は放射能はどうなっているのか？ベランダの除染もあいまいだった。除染については、どことなく信用性に不安を感じた。</p>

<p>賠償金不満 52件</p> <p>賠償金の金額 や対象への不満</p>	<p>震災も7年ほど経ち風化してきていると感じます。ですが、同じ福島県内なのに不平不満が未だに根強く、原発事故さえなければこんなにギスギスしなかったであろうと思います。やはり高額な補償金（賠償金）をもらい働かずにパチンコ等で遊び暮らしている人の話など未だに聞くのは嫌な気持ちになります。（全ての人がそうではないとは思っていても）福島県内でさえそう思っている人がたくさんいるのだから、県外の人からの風評もなくならないのも仕方ないのではと思います。</p>
	<p>同じ福島県民でも住む所により補償が全く違い、現在は何の補償もない。確実に事故前より線量が高いままなのに、体に害がないからと、そのままになっている。現在も補償金を受けとり医療費も払わずに働かずにいる人達がいる。格差をとっても感じている。同じ県民なので、子供達が安心して大人になれる補償が欲しい。</p>
	<p>浜通りの方で、帰還困難の方々が郡山の地域にたくさん来られているようですし、仮設住宅にもまだまだ住んでいらっしゃる方も多いです。やはり、ふるさとに戻れない心痛ははかりしれませんが、お金が入ってくることで、逆に子育てしにくくなっている部分もあるような気がします。（コンビニに一万円札をもって子どもが買い物に来るとか…）生活の保ち方は難しく、知人の小学生も今不登校傾向です。働かなくてもお金があり、（父親は働いていますが…）欲しい物は与えられ、自分の部屋もあり。物やお金があることが、反対に問題をうむのだと思いました。その中で自主避難の方への補助が打ち切られるのは、高齢者、子育て世代などに死ねと言っているように聞こえます。</p>
	<p>きちんと生活再建し、自立した生活をしている人と、いつまでも賠償金に執着している人とが混在しており、何も賠償をされていない地域のため、少なからず、皆、不平等感を持って生活している気がします。避難している方の子供が大金を持って遊んだりする事もあり、将来、自分の子供が社会的なつき合いをしていく中で、悪い影響がないかが不安に思う事があります。なので避難区域が解除されたら、元の地域に戻ってほしい。または、戻らないと決めた方は、同じ地域の人と同じように一切賠償金にたよらず、あたりまえの生活をしてほしいと思う。</p>
	<p>最近、震災・原発のことでの話題は残念ながら健康の心配や不安よりも、原発近くに住んでいた方々への賠償金についてです。県外へ避難されている方々が、度々いじめや差別的なことで苦しんでいるというニュースには心が痛みますが、わが家の近くへ避難されてきて、新居を構えている方々も多くなり、そのお金の使い方に、同じ県民であっても異議を唱えたい言動を見聞きします。今後原発近くに住んでいたという理由だけで、その方々へ長期に渡る過剰な賠償は必要なく、もっと福島県民全員に行き渡るケアが出来るような対応を各機関へ望みます。</p>
	<p>自主避難してる人にまで、お金とか出す必要はないと前々から思っている。</p> <p>避難している人にお金をやるのではなく、解除したその場所に戻った人に対して家を建て直す資金や生活費を出すべきだと思います。「戻れない」のではなく「戻らない」のですから。お金をもらうために。そして、避難したくても出来ず、子供を外で遊ばせることも出来ず、習い事（運動）をさせたり、休みにちょこちょこ遠出（県外）したりして、家計が苦しくなっても我慢している家庭があることも忘れないで下さい。どうか、こちらにも目を向けて下さい。</p>
<p>差別不安 50件</p> <p>県外からの福島県出身者へ</p>	<p>会話で出身は？となる。そして必ず何年になる？と聞く。この地で生まれ育った人たちは必ず、私の出身を聞くと一瞬止まる。厄介者を受け入れた気持ちもあるのだろうか。この地へ、他の地から何らかの縁で来ている人からは、感じない。私の思い過ごしだろうか。やはり避難してこの地にいるとは思われたくない。どうして避難＝悪い事の様なイメージが強いのだろうか。</p>

<p>の差別に対する不安</p>	<p>子供の将来は心配です。県外の方から見ると、「福島出身」と聞いて、嫌な気持ちになるのかなあとふと思います。子供の結婚や人間関係に影響を受けなければいいのですが。</p>
	<p>子供達が将来結婚する際に、相手の方が他県だったりすると相手の親の反対があるという悲しい話も耳にします。子供達は何も悪くないのに…と現在の情報等に疑問を感じます。</p>
	<p>原発事故が世間的に忘れ去られても、こども達はその時福島にいた事実は変わることはなく、あと数年経ってこども達が県外に出た時にその事実によって心をきずつけられたりしないか精神的な不安もずっと続くと思います。</p>
	<p>私も普通に生活しています。しかし、子供達が大きくなって県外で働いたりした時に、あの時福島にすんでいた人、放射能をあびた人、など思われ、差別を受けたり批難の聲が上がるのではないかと心配です。この不安は、多分一生あるのではないかと思います。</p>
	<p>子供が大きくなりいずれ県外に行くこともあるでしょう。その時に“福島育ち”ということ差別する人達もいるかもしれません。結婚相手として相応しくないと思う方もいるかもしれません。その時に傷付くのが最小で済むように話をしてくださいます（何があったかを伝え、福島に残り育った誇りや世の中のいろいろな考え方、選択のことなど）。とにかくたくましく育ててほしいと願います。</p>
	<p>子供達が大きくなって県外へ出た時。結婚する時。子供を授かった時。皆が受け入れてくれますように。「福島で生まれ育った事」が人生の壁となりませんように。それだけが不安であり願いです。</p>
	<p>この福島で生活している限りは特に心配となること、ストレスを感じることはなくなってきましたが、福島ナンバーの車で県外に出かけることに、少々ストレスを感じる場所は正直あります。県外の方がどう思っているかは分かりませんが、偏見は必ずあると思っています。今後、先々のそんな不安はあります。自分たちはいいのですが、子どもたちが大人になった時にどんな風評被害に遭遇するのが心配ですね。</p>

<p>生活がもとに戻ってきている 40件 震災前と変わらない生活に戻っている あるいは戻りつつある</p>	<p>もう思い出すこともあまりない。子どもも外で遊んでも心配することもなくなりました。震災前の生活に戻っています。</p>
	<p>もうすぐ7年ですが、初めの頃よりは、放射能の事はあまり考えなくなりました。近所の人たちも、外に出て井戸端会議や、小さい子供達も遊ばせている所を見ると、少しは放射能の事を考えずにすんでいるのだと思います。</p>
	<p>一生懸命生きて、過ごしていると、7年間はあっという間です。この地で子育てしていくと覚悟したので、不安、心配を持たないようセルフコントロールをしてから、7年。自分達夫婦も子供達もとても元気に福島の空気を味わっています。とても、楽観的だと思われるでしょうが…。それが、ストレスを持たず、健康に仲良く生きようと決めた私達の覚悟なので。今は、幸せです。</p>
	<p>今、震災や事故について何か困ったり、障害のようなものは全く感じておりません。自分なりに学び、対策が持てているからだと思います。ただし、福島に住む県民全てが対策を持てているわけではなく、どちらかといえば風化し、震災前の生活に戻っている場合が多いと感じています。</p>
	<p>震災の影響を感じない生活を送っています。気持ちも風化しつつありますが、震災での経験を忘れずに、防災などについても、時々、思い出して周りにも伝えていこうと思います。</p>
	<p>私自身もいろいろ調べたり、勉強しましたが、この地に住み続けても問題はないと思うし、さほど不安は感じていません。むしろ隣国の方が放射線量、甲状腺ガンが多いと聞いてます。前向きに生活していきたいと思っています。</p>

<p>国・県市町村・東電の対応 34件</p> <p>原発事故時とその後の対応への意見</p>	<p>まだ安心できる暮らしになっていない。安倍総理が、オリンピックを日本で開催したいがために、「終息宣言」を世界に向けて言ったときは、愕然とした。何1つ解決してないのに…。よくも嘘が言えるなど。まだまだまだまだ安心できる生活になっていないというのに、国民を見捨てて、よく嘘をあんなに簡単につけるなど。だから国がよくなる。国会議員全員、福島県民で仮設に住んでいる人たちと同じように、家族で移住して現場で現状を1年以上体験してほしい！！のん気にやっている場合ではない！7年たっても怒りはおさまらない！！</p>
	<p>子どもに対する行事の助成事業が継続されていたりするので、普段仕事等で外出できなくても、いろいろな体験ができているようなので助かっています。</p>
	<p>原発事故による不安で、家の着工を遅らせました。その間に消費税が上がり、資材が高騰し、…などなどにより数百万円、予定より多くかかりました。ADRセンターを通し、賠償請求しているところですが、原発からの屁理屈のような回答書を見てモヤモヤしています。東京電力なんて、なくなってしまえばいいのに… と思っています。</p>
	<p>行方不明の話が、TV・新聞に出るたびに心が痛みます。もっと県、市は本格的な避難訓練を実施しておくべきなのではなかったのではないかと残念に思うばかりです。2年後の東京オリンピックは早すぎると思います。まだやるべきでは無いと切に思います。これほど大変な事が目の前に有るのに政治家達のいいかげんさには呆れかえります。こんな小さな国でも、直接被害が及ばない人間には理解出来ないものだとつくづく感じるこの頃です。今の自民党では無理です。何とかしてほしいです。</p>
	<p>この度の原発事故は、天災でもあり、人災でもありますが、当時の政権運営のまずさが引き起こしたと思っています。当時の政権を断罪すべきです。</p>
	<p>原発事故の補償について。いつまで東電は払い続けるのか。もらっていない側からすると、もう十分だろう、と思ってしまう。</p>
	<p>国も県も市も東電も、今ここに居て普通にしているうちらに対し、不公平だと思う。「原発」と聞くだけでイライラする（家族みんな）。お金で済む問題ではない（一生）。補償プラス、心のケアを1人1人にしてほしい。人間に対しての汚染はかなり深刻なのに、軽く考えられすぎ。</p>
<p>原発での避難で仮設に住んでいた人達が、元々住んでいた人と変わらず、家を建て、地元民として(?)生活し、見る限り(個々で)は区別が付きません。でも、それは表面だけであって、内々ではこのアンケートを書いている地域の人みんなわだかまりをかかえています。(中略)差別を生んだのは国・東電・自治体です。</p>	

<p>情報不安 26件</p> <p>情報の内容、格差に対する不安</p>	<p>もうテレビで放射能についてやることもほとんどなく、情報もほとんどありません。あるとすれば、保養に参加した時にお母さん同士で情報を共有したり、保養の主催者の方からお話を聞いたりするのみで、普段の生活では知るすべがありません。</p>
	<p>皆、何もなかったかのように生活しているし、話題にもならない。だけど、この影響がいつどこで出てくるのか？大丈夫と言う人たちは何を根拠に言っているのか？信用出来る情報は何もない。</p>
	<p>どこが安全でどこが危険なのか知りません。そのような情報はみんなて共有すべきで、気付いた人だけが情報を探す世の中では良くないと感じました。</p>
	<p>どうしたら情報格差がなく、子どもをもつ方々に情報が伝えられるのだろうと日々思っています。みんなが知るべき情報すべてが平等に伝わってほしいと願います。</p>

	毎日ニュースでも放射線量の測定値が出ますが、だから何??とと思っている人達多くいるんじゃないかな...。どこまでが本当で、どこまでがウソなのかわからず、毎日を生活しています。
	私の住んでいる福島市では、原発事故の風化を感じています。地域の人も職場でもあまり話題にはなりません。除染も進み、線量もだいぶ下がっています。全国的なテレビ番組でも、避難している人の話題ばかりで、県外の人へ心配を増やすのではなく、今の現状、安心を放送してほしいと思います。

原発への否定 意見 20 件	なぜ福島に原発があるのか。関東で使う電気、なぜ福島に?世界で福島とレットルをはられたのが悔しい。美しい県だったのに。
	国が今も原発によるエネルギーに頼っており、海外にも作る事を進めている事に憤りを感じる。一刻も早く原発に頼らない自然エネルギーに転換してほしい。核のゴミ問題等、原発の問題を後回しにしないで真剣に考えてほしい。そしてしっかりと進めて実行してほしい。
	自然災害が原因とはいえ、あのような原発事故が起きてしまい、今もその地で暮らしている人が大勢いますが、原発再稼動を認めている方々はその事は忘れてしまっているのでしょうか?いくら万全の備えをしていたとしても、絶対に大丈夫という事はありません。今度又同じような原発事故が起きたとしたら最初の頃だけ騒ぎ立てられて、しばらくしたら触れられなくなり、私達と同じ思いをすることになるのかと心配になります。
	手に負えない(今の人間の技術では)原発は、やめてほしいです。
	福島原発を一秒でも早く廃炉にしてほしい。近い将来、大地震が起きる可能性があるのに、又、再び原発が壊れて、放射能がもれたり、住めなくなったりするのは、絶対に嫌。

甲状腺検査 18 件 検査の結果や 体制に対する 不安	甲状腺検査は、他県だと、受診機関がかなり限定され、日時(曜日)も、限定されすぎていて、フルタイムで仕事をしていると行けません。もう少し検討していただけるとありがたいです。
	以前に甲状腺の検査で A2 判定がでたときは、病院の先生や検査の人に聞いたりして、気が気ではありませんでした。検査するたびにドキドキで、モニターを見てしまいます。やはり今後、子どもたちの体については不安です。
	甲状腺の検査が、一番の不安というか悩みです。初めの検査から「A2」の判定です。今後、「B」→「C」と進んでいったら...と思うと心配です。検査の結果、「甲状腺がん」と診断された方もいるようですが、震災の前後で、どのくらい、がんの子どもたちが増えたのかや、原発事故との因果関係を詳しく公表してほしいと思います。
	甲状腺検査をもっと短期周期で受けるべきだと思う。
	実際、甲状腺の検査も福島の子供たちだけ調べても意味があるのか?今まで調査した事がなかったと思うので、震災前はどのくらいの子供がどのくらいの状態にいたのか?分からないので比べようがない。県外の子供も調査してもらえると影響があるのか?比較できる。
	今回子どもの、のどの腫れが気になり、甲状腺外来を受診すると「4.6mm」すぐに内服開始となりました。半年で体重が 0.5kg 減少していたことも気になりました。震災、放射能の影響かともとのものなのか誰も何も分かりません。そのことも不安になっています。そして将来子供の健康はどうなっていくのか、福島にいたことは正しかったのか考えてしまいます。誰かに震災、放射能のことは関係ないと断言してもらえた方が楽だと思います。先日受診時、子供が先生に「早く大きくなりたいし、サッカー選手になりたいから、薬の量を増やしてください。」と自分から言っていたのを聞いて、胸が痛みました。

<p>避難と帰還をめぐる思い 16件</p> <p>原発事故をきっかけに避難されている方、戻ってきた方、避難できなかった方、避難の思い</p>	<p>自主避難して5年。主人も職場に慣れ、息子も毎日元気に学校に通っています。家族3人健康です。甲状腺検査も判定に変化なく、安心していきます。このまま新潟で子育てを続けたいと思っています。7年前の大変だった日々について、誰かと話すことも全くと言っていいほどなくなりました。福島にはもう戻りたくありません。でも、主人は、親もいまずし、いつかは帰りたいと思っているようです。</p>
	<p>子供は今でも福島へ帰っておじいちゃんおばあちゃんと暮らしたいと言います。でも、こっちの学校でも友達もできたし、習い事（ピアノ、ロボット）も楽しく通っているので、簡単に帰れないです。実家へ帰るのは、お盆と正月ぐらいですが、体調不良になったりします。でも放射能のせいかなと思っても、だれにも言えないのが辛いです。考えただけで暗い気持ちになるので、あまり考えないようにしています。でも本当はきちんと向き合って考えなければと思います。生活は本当に苦しいです。今年から家賃補助が1/3になるのもっと苦しいです。でも、地元の人には避難もできず、お金ももらわないでがんばっているの、うしろめたい気持ちになります。本当に苦しい。お先まっくらになります。でも、考えないように毎日普通に過ごしています。</p>
	<p>現在、県外に避難中ですが、福島に家を残しているため、いずれは福島に戻る予定でいます。今すぐにでも福島に帰りたい夫、放射能の影響が心配なのでまだ帰りたくない私。子どもの進級、進学のタイミング、他にも色々と、考えることがあり、どの時期に福島に戻ればいいのか、なかなか答えがでないでいます。放射能の影響はあるのでしょうか、ないのでしょか。それが1番知りたいです。</p>
	<p>子供達から、当時の様子を聞かれ（当日～その後の生活・避難など）話す事もあります。「なぜ避難先（県外の祖父母宅）から戻ったのか」と聞かれ、答え、私達にとって良い選択だったのかを家族で話し合った事もありました。私はこれで良かったと思っています。今はこれで良いです。ただ、子供達が大きくなって県外へ出た時。結婚する時。子供を授かった時。皆が受け入れてくれますように。「福島で生まれ育った事」が人生の壁となりませんように。それだけが不安であり願いです。</p>
	<p>この春には、避難生活を終えます。家族で暮せるのは嬉しいですが、福島でとなると、憂鬱さと子供への健康面での心配が正直あります…。</p>

<p>現在の健康 15件</p> <p>子どもの現在の健康状態 母親の精神面の不調</p>	<p>アレルギーが酷く、毎日年中風邪を引いているように鼻が詰まっている。311の影響かどうかは分からないが、そうなのかもしれない。私の頭痛も酷く、日常生活に多大に影響が出ているので、311の影響なのかもしれない。今は新たな土地で、毎日をすごすことに精一杯なので振り返ったりはしていない。そのことで不安定になったりはしていない。</p>
	<p>よく鼻血を出します。それが放射能のせいなのか分かりませんが、周りの子供達の話や聞くと鼻血を出している子が増えています。心配です。</p>
	<p>震災のことははじめ、教育方針や家計の事などどんどん夫との考え方にちがいが出てきていて、全てのことを考えたりするのが私一人なので、常に何かを心配して、不安に思って、家事や習い事の送り迎えなど…体調や精神的にも良くない状態が続いているのでとてもつらい毎日です。しかし、「気持ち弱いからだ！」と言われるだけなので今は本当につらいです。ただそれだけです。</p>
<p>子供がからだをかゆがります。病院で薬をもらってますがアトピーっぽいようです。私もどちらかというと同じような症状が出ます。口の中でするものができたり、すべてが、結びつくものではないのですが、不安です。</p>	

<p>事故を思い出す 15件</p> <p>原発事故がトラウマになっている</p>	<p>海に行き、楽しんでいる子供達の姿を見ると、「来て良かった。」と思うのですが、少したつと、「地震がきたら、どうしよう…」と気分が沈んでしまう繰り返しです。今まで楽しめていた事も楽しめなくなり、ショックです。家にいても、地震の緊急速報メールがきたり、地震速報があると、子供が怖がって、コタツの下に入って「怖かったよう」³とすごく怯えた様子で見ると、やっぱり思い出すのかなと思います。</p>
	<p>精神的にだいぶ落ち着いてきた感じはする。ただ最近また地震があり、地震アラームが鳴ったりすると、不安になり、ハラハラする時もある。子供も動揺し、しがみついてしばらく離れない様子もまだ見られる。月日が経過したものの心の奥の傷は消えないと思う。</p>
	<p>だいぶ落ちつきましたが、今でも夜間を中心に、停車中の車のエンジンの音がかすかに聞こえるだけで、地震かも…と身をこわばらせることが、子ども共々よくあります。地鳴り（の音）に似てるんですよ。</p>
	<p>あまり思い出さなくなってきましたが、地震警報のあの音やテレビで大震災のことをとりあげられていたりすると、今でもすぐ思い出し、動悸が激しくなったり、涙が出たりする。</p>

<p>風評不安 15件</p> <p>福島の人、物に対する風評への不安</p>	<p>福島出身と胸を張って言えないのが事実です。何ともないように周りには話しますが、内心マイナスイメージでとらえられているのではと感じてしまいます。</p>
	<p>福島が大丈夫だということを他県の人にもわかってもらいたい。</p>
	<p>私の住んでいる地域は、福島の中でも比較的原発の被害が少ないところです。浜通りに比べて安全なところで安心して暮らせています。しかし「福島」というひとくくりで風評被害などをTVや新聞で見ると残念でなりません。</p>
	<p>果樹栽培をしているので、風評により売上は下がっています。</p>
	<p>風評被害は依然としてある。正しい事を理解してほしい。偏見がなくなれば良い。</p>

<p>保養 11件</p> <p>保養に満足している声と、こ保養が減るとへの不安</p>	<p>年々保養に使うお金が大変になってきました。助成が減っているので、その分自己負担が増えました。今3年生...あと3年はがんばりたい。2シーズン先の保養を考える生活が疲れた。今は夏休みの保養受け入れ先を探している。お金は大変だが、子供が大人になった時「やっぱり保養に行かせれば良かった」と思う様な症状になりたくないの、何としてもやりくりして遠くへ行かせたい。</p>
	<p>今でも休みを利用して、子ども達を保養させてくれようと力をつくしてくださっている方々がいらっしゃいます。他県にいながらも、自分の事のように心配し、思い、考えている方々の存在を知るたびに、元気をもらって、子ども達も勇ましくなって、現在まで成長してこれた所もあると思います。</p>
	<p>7年経つとリフレッシュ保養など少なくなってきて、自分たちで外に出るしかなく、避難区域の人たちは高速など無料だけど、郡山は今何も補助されていないので年々出費が増えています。</p>

<p>地震への不安 7件</p> <p>また大きな地震が起きたらという不安</p>	<p>だんだんと風化し、忘れつつあります。ただ、小さい地震でもドキドキすることがあり、親子ともども、あの時の大地震はなかなか忘れることができません。</p>
	<p>地震速報が携帯やTVでなると、今でもびくっとおびえています。心身ともにすくすくと成長してくれました。またあのような大震災がおきないことを願うばかりです。</p>
	<p>また地震がおきたり、原発事故がおきるのではないかと心配でなりません。</p>

9 おわりに

今回の調査結果は、以下のようにまとめられます。

- お子さんの外遊び時間は昨年 비해減少し、お子さんのライフスタイルの変化がうかがえます。テレビ・インターネットをみて過ごす時間が長くなっているようです。
- 親御さんがお子さんと一緒に遊ぶ機会や、一緒に買い物に行く機会は、減少してきていることがわかりました。お子さんが成長するにつれて、親子で一緒に行動する時間が減少しているようです。
- お子さんの適応と精神的健康については、女子は全国調査と比較して「正常」の割合が高く、男子は全国調査と比較して低いことがわかりました。
- お子さんの健康状態は良好ですが、「頭痛」だけが増えているようです。
- お母さんの健康状態も良好ですが、「肩こり」「腰痛」「頭痛」が一貫して多いようです。
- お母さんの心の状態はおおむね安定しています。ただ、災害に関連した心の状態を評価する SQD では「イライラ・怒りっぽい」「疲れやすい」「寝つけない・途中で目が覚める」といった症状が多く、震災・原発事故の影響が残っている可能性もあります。
- 「保養に出かけていない」方が増加する一方、一定割合の方が保養に「よく出かける」ようです。
- 「補償の不公平感」「放射能情報に関する不安感」は高いままです。「健康への影響」への不安感も半数程度の方が感じています。「いじめや差別への不安」は、昨年上昇し横ばいとなっています。少なくとも、地元産食材や洗濯物外干しへの抵抗感、周囲の人との認識の違いなどに悩む方も一定の割合でいらっしゃいます。
- お子さんの甲状腺検査の結果は、A1 判定の割合が減少、A2 判定の割合が増加傾向にあり、その動向を引き続き注視する必要があります。
- 3 割以上の方が「原発事故・放射能を話題にしにくい」と感じ、8 割以上の方が「原発事故の風化」を感じています。
- 地域への愛着や住み続けたいという意識については、9 割以上の方が肯定的です。一方、転居意思のある方も約 1 割みられています。

時間の経過とともに原発事故の風化が進み、生活も原発事故前の状態に戻りつつあります。お子さんとお母さんの健康状態もおおむね良好で、お母さんの心の状態も安定してきています。しかし、母子ともに現在は健康であるが、将来の子どもたちの生活や健康に影響があるのではないかという不安は解消されていません。くわえて、補償の問題や行政の対応の不足など、さまざまな課題も残されています。

福島子ども健康プロジェクトは、今後も親子の生活と健康状態を定期的に記録し、広く社会に伝えるとともに、親子が健やかに生活できる環境を整えるのに必要な施策につなげていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

福島子ども健康プロジェクト

福島
子ども健康
プロジェクト